フラットガレージシャッター

ポルティエ

取扱説明書

ご使用の皆様へ

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
わからないことや不具合が生じた時にはもう一度ご覧ください。
また、いつでも使用できるように大切に保管してください。

建設会社様へ

この取扱説明書をご使用になる方へ必ずお渡しください。

お施主様、管理者様へ

本製品を長期間安全にご使用いただくためには、定期点検と定期的な部品交換が必要です。38ページをご覧いただき、必ず実施してください。

BX 文化シャッター

安全にお使いいただくために

- 「フラットガレージシャッターポルティエ」のご使用前に「ご使用上の注意」をよく読み、理解してから使用してください。
- 長期間正常な使用ができるように、「定期点検契約」を結んでいただくようお願いいたします。

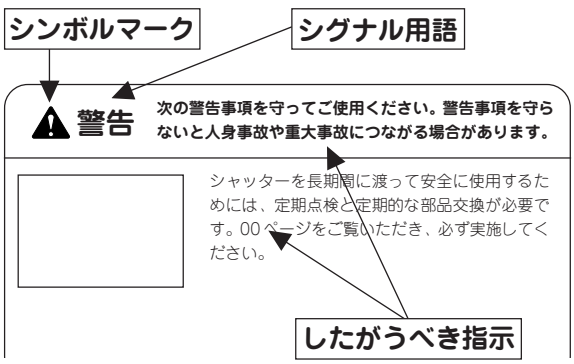
- 安全にご使用いただくために特に大切な「お知らせ」には、本取扱説明書では次のようなシンボルマークとシグナル用語で危険のレベル分けをしています。

危険　取扱いを誤った場合に、使用者または不特定多数の第三者が、死亡または重傷を負う可能性があり、かつその危険性と隣りあわせであることを示しています。

警告　取扱いを誤った場合に、使用者または不特定多数の第三者が、死亡または重傷を負う可能性のあることを示しています。

注意　取扱いを誤った場合に、使用者または不特定多数の第三者が、軽傷を負うかまたは物的損害を被る可能性があることを示しています。

本文では以下のように使用します。



「シグナル用語」に続くしたがうべき指示を十分守らないと、人身事故につながることになります。

- 上記以外の「お知らせ」には次のようなシグナル用語を使用しています。

注　記　取扱いを誤った場合に、本製品に故障が発生したり、性能が発揮できないことが想定される場合。

はじめに

- この取扱説明書は、実際に「フラットガレージシャッターポルティエ」をご使用になる方（管理者・オーナー）のために使用方法を説明したものです。
- 最初に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、「フラットガレージシャッターポルティエ」をご使用ください。
- 経験者の方でも、少しでも不確かな点がございましたら、この取扱説明書をよくお読みのうえ、確かめてから「フラットガレージシャッターポルティエ」をご使用ください。
- 32ページ「リモコン（ID コード）の管理のお願い」にしたがって、リモコン ID コードシールを貼付けてください。リモコンIDコードが不明になりますと、紛失したリモコンの抹消ができません。

目　次

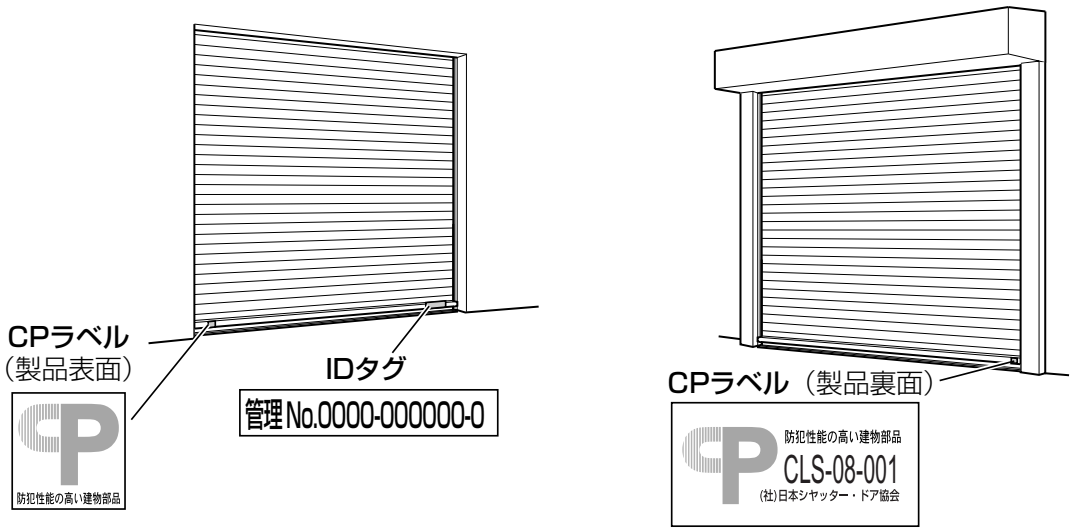
1. ⚠ ご使用上の注意 3
   - 表示ラベルについて 3
   - 基本的な注意 4
   - 停電時の操作方法に関する注意 9
   - 強風時の注意 10
   - 厳寒時の注意 10
2. ご使用にあたっての留意事項 11
3. ⚠ 製品の概要 12
   - 本体の名称 12
   - 製品仕様 14
   - 防犯性能の高い建物部品について 15
4. ご使用方法 16
   - 使い方 16
   - 通常操作 17
   - 障害物感知装置について 19
     - 障害物の感知エリア 19
     - 障害物感知装置が障害物を感知したときの動作 20
   - 停電時の操作 23
   - オプション 25
     - 防火設備仕様の障害物感知装置の電池交換について 25
   - リモコンの電池交換 27
   - リモコン（ID コード）を追加登録する方法 28
   - リモコン（ID コード）を抹消する方法 30
   - リモコン（ID コード）の管理のお願い 32
   - スイッチ２回押し操作への切替方法 33
5. お手入れ方法 35
6. 点検 37
   - 日常点検 37
   - 定期点検と定期的な部品交換について 38
     - 定期点検の回数 38
     - 定期的な部品交換について（有償） 39
     - 定期点検契約について 40
7. 故障かなと思ったら 41
   - 製品本体 41
8. 商品履歴管理システムについて 43
9. 修理のご案内 44
10. 製品保証 ..... 裏表紙

1. ⚠ ご使用上の注意

- この章に記載されている内容をすべて読み、完全に理解したうえで、「フラットガレージシャッターポルティエ」をご使用ください。
- この取扱説明書は必要なときに、いつでも取り出して読めるよう大切に保管してください。
- 「フラットガレージシャッターポルティエ」に貼付けされている表示ラベルとこの取扱説明書に表示されているすべての注意および指示に必ずしたがってください。

表示ラベルについて

- 本製品には以下のラベルを貼付しています。注意事項には必ずしたがってください。

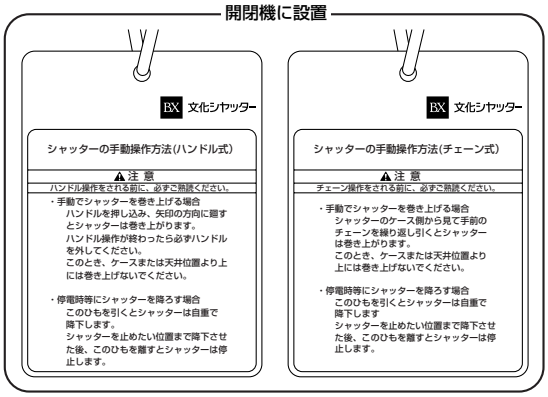


- 警告ラベルが汚れたり、はがれたりした場合は、最寄りの文化シャッター営業所までご連絡ください。
- ID タグについて

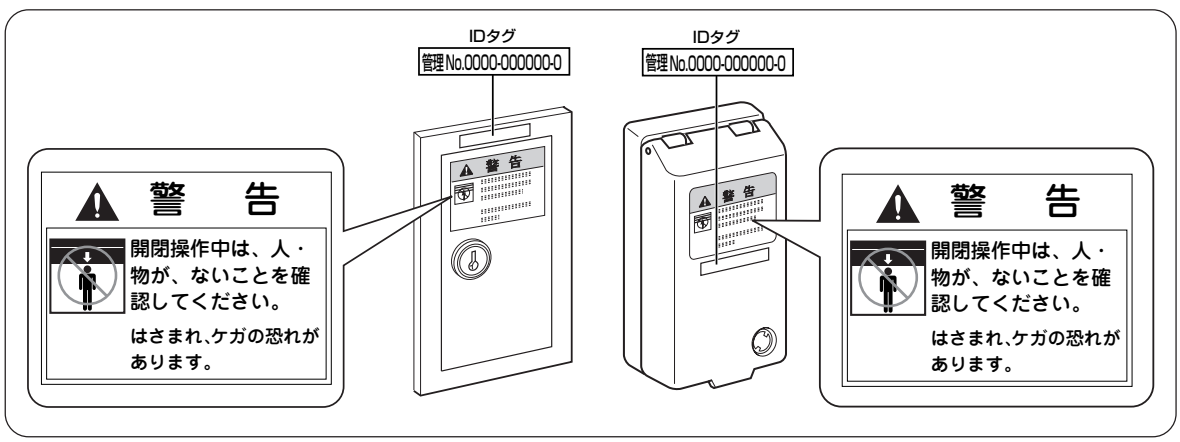
  ID タグには製品一台に一つずつ割り当てられた管理ナンバーが記載してあります。

  修理・点検の際にはこの番号をお知らせください。

  詳しくは43ページ記載の「8.商品履歴管理システムについて」をご覧ください。



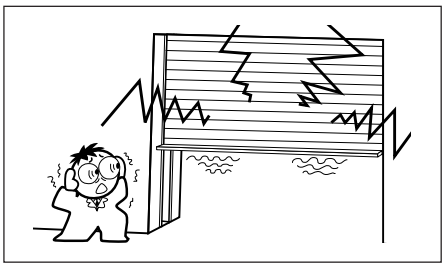
押しボタンスイッチ



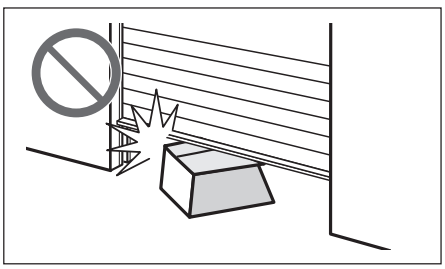
基本的な注意

警告 次の警告事項を守ってご使用ください。警告事項を守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。

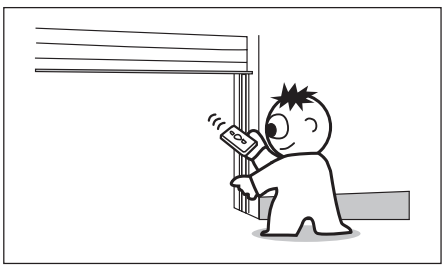
シャッターを長期間に渡って安全に使用するためには、定期点検と定期的な部品交換が必要です。38ページをご覧いただき、必ず実施してください。



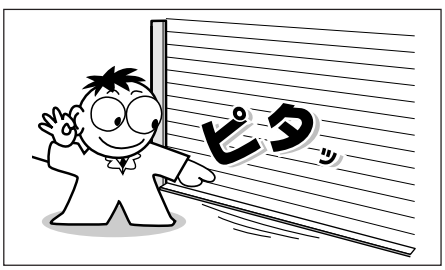
41ページ記載「7.故障かなと思ったら」にもあてはまらない異常な動作をしたり、異常な音がした場合は、直ちに使用を中止して44ページ記載の文化シヤッターサービス株式会社に修理をご依頼ください（有償）。



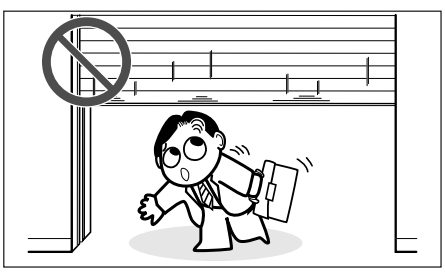
シャッターの下で立ち止まったり、車を止めたり物を置かないでください。
思わぬ事故につながるおそれがあります。



シャッターの下に人がいないこと、物がないことを確認してから操作してください。

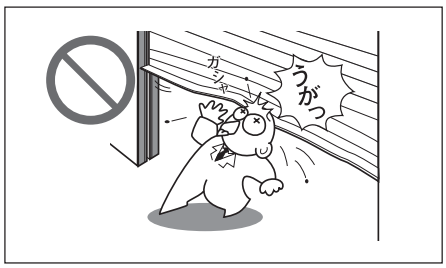


シャッターが完全に閉まるまで、シャッターのそばを離れず、目を離さないようにしてください。
第三者がシャッターにはさまれる場合があります。

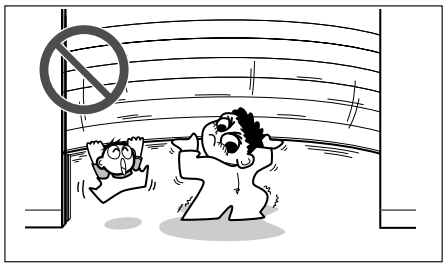


シャッターが動いているときに人や車の出入りをしないでください。

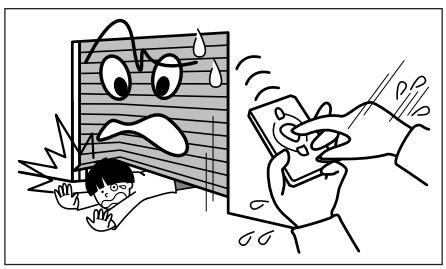
警告 次の警告事項を守ってご使用ください。警告事項を守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。



シャッターが完全に開いてから通行してください。完全に開けずに通行すると、ぶつかってケガをしたり、物を破損するおそれがあります。また、不意にシャッターが降りて思わぬケガや事故になる場合があります。

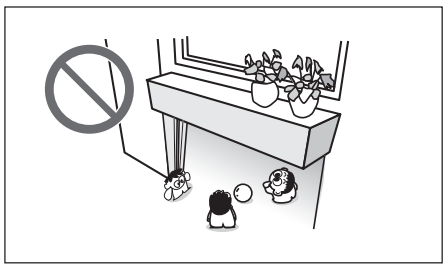


シャッターが動いているときは、手で止めようとしたり、ぶらさがったり、カーテンやレールに指をかけるなど、シャッターに触らないでください。シャッターが故障したり、はさまれたりするなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。

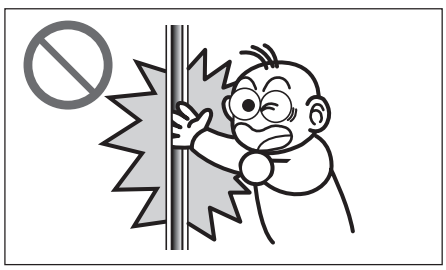


シャッターを閉めているときに開けたい場合は一旦「STOP（停）」スイッチを押した後、「OPEN（開）」スイッチを押してください。「STOP（停）」スイッチを押さないと、シャッターは閉まりつづけます。
リモコンを誤操作防止の設定にしているときは、「STOP」スイッチを押した後、「OPEN」スイッチを２回押してください。

シャッターに物を立てかけないでください。
物を立てかけたまま開閉すると、物が倒れてくるなどして思わぬ事故になる場合があります。

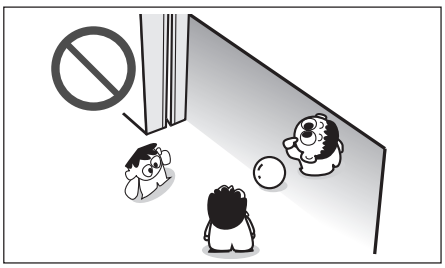


ケースの上に物を置かないでください。
カーテンの振動により物がケースから落下する場合があります。

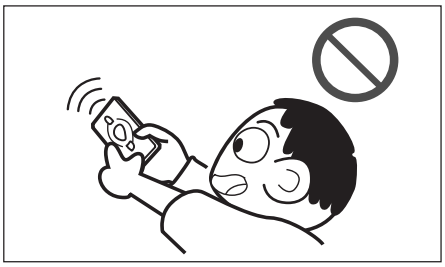


ガイドレールの溝など、部材のすき間や、動く部分に指を入れないでください。
思わぬけがをする場合があります。

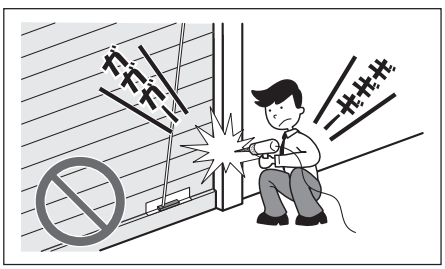
⚠ 警告 次の警告事項を守ってご使用ください。警告事項を守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。



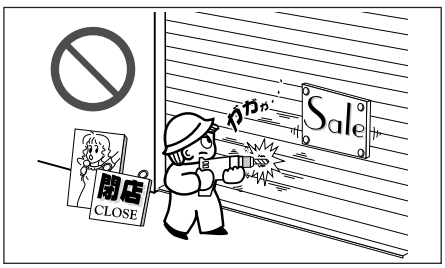
シャッターの下やその付近で子どもを遊ばせないでください。
思わぬけがをする場合があります。



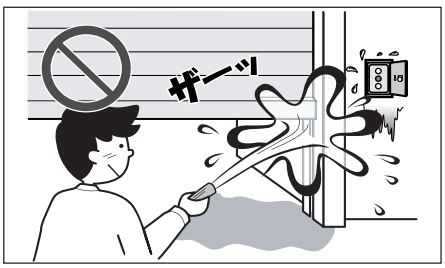
子供には、リモコンや押しボタンスイッチを操作させないでください。
子供や第三者が誤ってはさまれるおそれがあります。シャッターを使用しない場合は、押しボタンスイッチに鍵をかけてください。



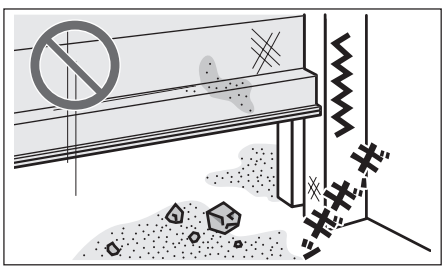
ガイドレールやボックス部など、製品にビス止めしたり釘を打ちつけないでください。また、物をぶつけたりしないでください。
故障の原因となったり、配線などが傷つき、本来の機能が発揮できなくなったり、漏電したりするおそれがあります。



製品の日常点検以外の点検、修理には専門知識が必要なので、当社の手配によらない分解、改造、修理は絶対にしないでください。分解等によりその他の部分にも故障が生じたり破損が発生するおそれがあります。製品の点検、修理等が必要な場合は44ページ記載の文化シヤッターサービス株式会社にご依頼ください（有償）。

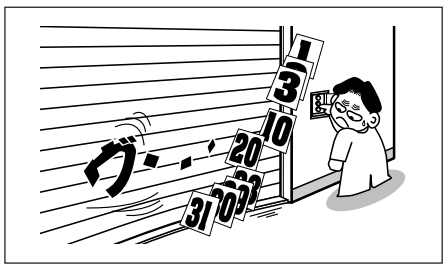


製品に水をかけないでください。汚れたときなどは、35ページに記載してある「5.お手入れ方法」にしたがって清掃してください。製品に水をかけるとサビの発生や消耗が促進されたりします。また電装品が漏電して、勝手に動作したり感電するなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

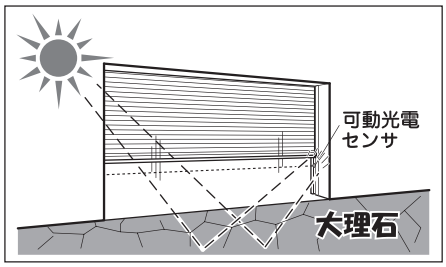


水切りや周辺の床はいつも清掃してください。
水切りの隙間にドロや小石がつまると正常に作動しない場合があります。

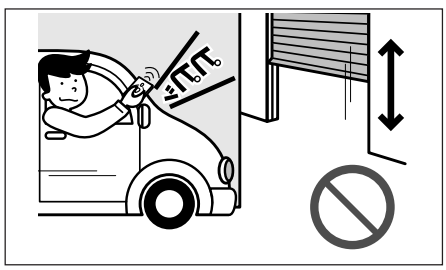
警告 次の警告事項を守ってご使用ください。警告事項を守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。



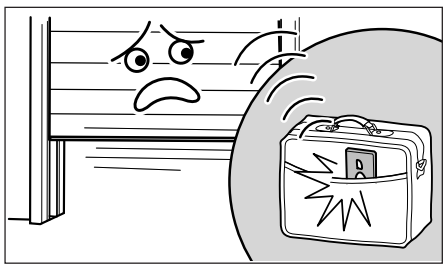
少なくとも１カ月に１回は開閉してください。長期間使用しないと錆をはじめとした不具合が生じるおそれがあります。



シャッター動作中はレール内に設置されている障害物感知装置の可動光電センサに太陽の光が当たらないようにしてください。
また、床面が反射率の高いもの（大理石、水たまりなど）の場合も太陽光などの影響を受け、センサが正しく作動しない場合があります。

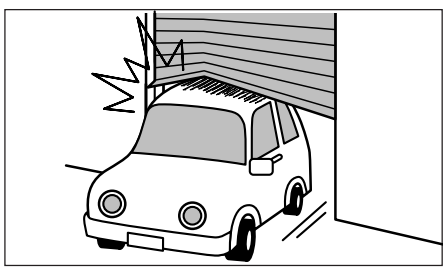


シャッターが見えないところから操作しないでください。開閉操作をする際は、シャッターの下に人がいないこと、物がないことを確認してください。人や車などが挟まれる事故につながるおそれがあります。



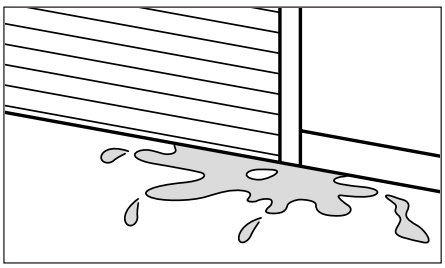
リモコンをカバンや服のポケットの中に入れるときは、スイッチにカバンやポケットの中の物があたらないようにしてください。
スイッチに物があたると、意図せずシャッターが動き出す場合があります。
リモコンの誤操作防止の設定もあります。
詳しくは、33ページ「スイッチ２回押し操作への切替方法」を参照してください。

注意 次の注意事項を守ってご使用ください。注意事項を守らないとけがや事故につながるおそれがあります。

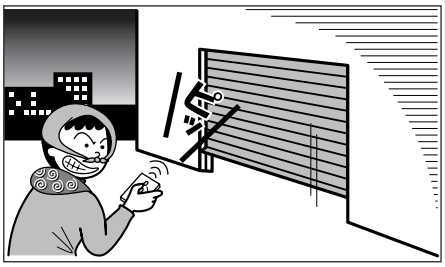


万一シャッターに障害物が挟まれた状態で停止した場合にはリモコン操作もしくは押しボタンスイッチにより、一旦シャッターを開けてから障害物を取り除いてください。開かない場合は、44ページ記載の文化シヤッターサービス株式会社にご連絡ください。
挟まった状態で無理に取り除くとけがをしたり、シャッターや障害物が破損する場合があります。

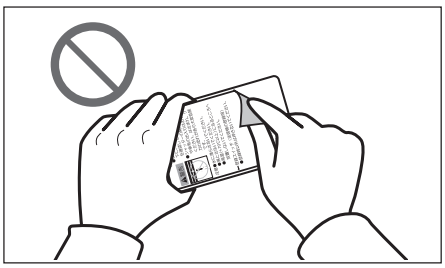
⚠ 注意 次の注意事項を守ってご使用ください。注意事項を守らないとけがや事故につながるおそれがあります。



シャッターの内側に水が入ってくる場合があるので、濡れて困るものをシャッターの近くに置かないでください。

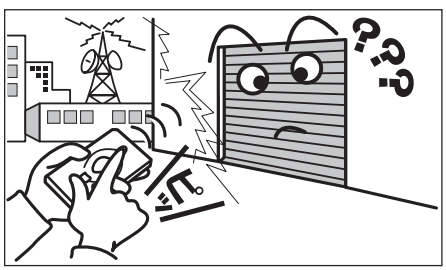


リモコンや鍵は紛失しないようご注意ください。第三者によってシャッターを開けられるおそれがあります。
リモコンを紛失した場合は、30 ページをご覧いただき、紛失したリモコンのID コードを抹消してください。
鍵を紛失した場合は、鍵本体の交換をおすすめします。
鍵本体の交換は44ページ記載の文化シヤッターサービス株式会社にご依頼ください（有償）。



リモコンの技術基準適合証明ラベル（リモコン裏蓋に貼ってあるラベル）ははがさないでください。
ラベルのないリモコンは使用が禁止されています。

リモコンの海外での使用は絶対にしないでください。外国の電波法に準じていません。



テレビ・ラジオの送信所近辺などの強電界地域でリモコンを使用した場合、到達距離が短くなったり、正常に動作しないことがあります。

注　記　**次の注意事項を守ってご使用ください。注意事項を守らないと本製品に故障が発生したり、性能が発揮できない場合があります。**

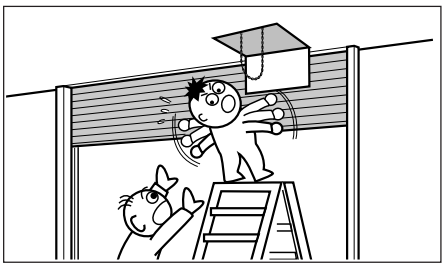
＜故障防止について＞
- 本製品の分解・改造は絶対にしないでください。分解・改造は電波法で禁止されています。
- リモコンを水に浸けないでください。水の中に入れると内部まで浸水して故障の原因になります。
- リモコンを落としたり、乱暴に取り扱わないでください。
- リモコンを車のダッシュボード、直射日光下で高温になるところ、湿気の多いところ、極端な温度になるところ（70℃以上または－20℃以下）に放置しないでください。

＜誤動作について＞
- リモコンに強い磁気を近づけないでください。リモコン内部の電子部品が磁気により正常に動作しない場合があります。
- 電波式無線中継局からの強電界の電波がリモコンに加わった場合、到達距離が短くなったり、正常に動作しないことがあります。また非常に強力な電波（不法CB等）がリモコンに加わった場合、誤動作する恐れがあります。
- 静電気などの影響により正常に動作しない場合があります。
- フロントガラスに熱反射ガラスを使用している車は、電波の透過性が低いため、到達距離が短くなる場合があります。

＜保管・電池交換について＞
- 長時間ご使用にならない場合は、腐食防止のため電池を外してください。
- リモコンはお子様の手の届かない安全なところに保管してください。
  電池を飲み込んだり、誤った操作をして生命にかかわる事故になる場合があります。万一、電池を飲み込んだ場合には直ちに医師にご相談ください。
- 電池は分解、加工、充電、ショート、加熱、火中投入などしないでください。
  液漏れ、発火、発熱、破裂の原因となります。
- 電池を破棄する場合はテープなどで巻いて絶縁してください。
  他の金属や電池を混ぜると発火、破裂の原因となります。

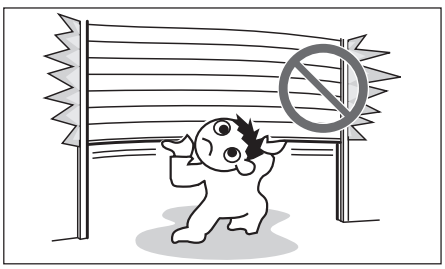
停電時の操作方法に関する注意

警告 次の警告事項を守ってご使用ください。警告事項を守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。



停電などの非常時の操作には高所作業を伴います。高所で暗いところでの作業となることもあり危険がともなうため、基本的には44ページ記載の文化シヤッターサービス株式会社へ対応依頼をお願いします（有償）。なお、緊急を要する際など、やむを得ずお客様にて操作される場合には、ヘルメットや安全帯の着用、必要な足場や照明の確保など、墜落・転落事故の予防を行い、安全を十分に確保した上で、操作を行うようお願いいたします。

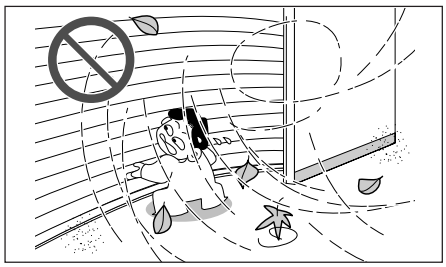
注意 次の注意事項を守ってご使用ください。注意事項を守らないとけがや事故につながるおそれがあります。



手動操作はシャッター水切り(シャッターカーテン下端)を持って開閉しないでください。必ずショートリンクチェーンか降下用ロープを持ってゆっくりと開閉してください。シャッター水切りを持って開閉すると、障害物感知装置が故障するおそれがあります。

強風時の注意

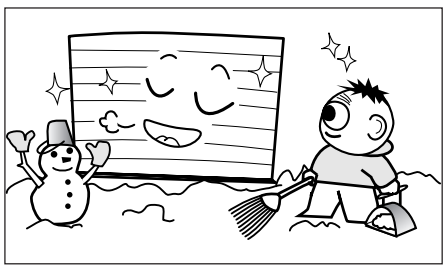
警告 次の警告事項を守ってご使用ください。警告事項を守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。



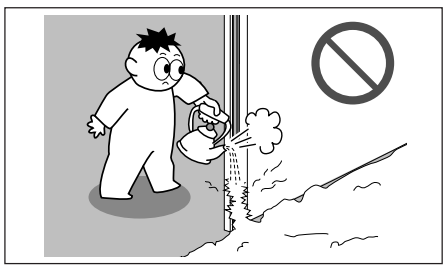
台風などの強風時にはシャッターに近づいたり動かしたりしないでください。シャッターが外れて人や物にあたる場合があります。
なお、強風でシャッターが外れた場合は、44ページ記載の文化シヤッターサービス株式会社に修理をご依頼ください（有償）。

厳寒時の注意

警告 次の警告事項を守ってご使用ください。警告事項を守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。



カーテン表面の凍結・着雪を取り除いてからご使用ください。カーテンが凍結したり、着雪した状態ではカーテンを正常に巻き取れない場合があります。



ガイドレール内の雪や氷は、取り除いてからご使用ください。
（レール内に設置されている障害物感知装置の可動光電センサにはお湯等はかけないでください。）
無理に開閉しようとすると、思わぬケガをする場合があります。

厳寒時にシャッターを開けた場合は、速やかに閉めてください。
シャッターを開けたままにすると、カーテンが凍結し、凍結したシャッターを閉めようとすると、カーテンから氷が外れ、シャッターが急に閉まる場合があります。シャッターが異常な動作をしたり、異常な音がする場合は、44ページ記載の文化シヤッターサービス株式会社にご連絡ください。

2. ご使用にあたっての留意事項

● 下記事象は製品の特性であり、不具合ではありませんのでご留意ください。

● 風雨時にシャッターを閉めた状態でも、カーテンの屋内側が濡れることがあります。これはカーテンに横向きの風雨があたった場合、カーテンの屋内側まで水が伝わるためです。

● カーテンの屋外側が雨などで濡れているときに開閉すると、カーテンの屋内側も濡れることがあります。これはシャッターを巻き上げた際、カーテンの屋外側と屋内側が重なるためです。

● 強風時は、カーテンがたわむ場合があります。

● 強風時は、カーテンが揺れて音がする場合があります。

● シャッターを閉めても光がもれることがあります。

● 同じ高さのシャッターが並んで設置されている場合に、カーテンのラインの高さがそろわない場合があります。

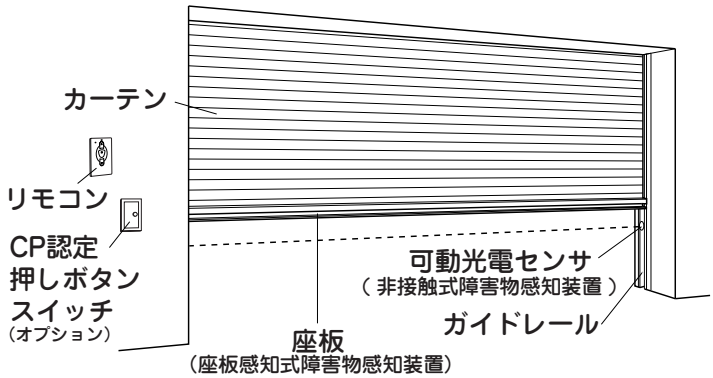
● シャッターの構造上、カーテンに付着している水滴も一緒に巻き上げるため、シャッターケース内に水が垂れ、ケースから水がもれることがあります。

3. ⚠ 製品の概要

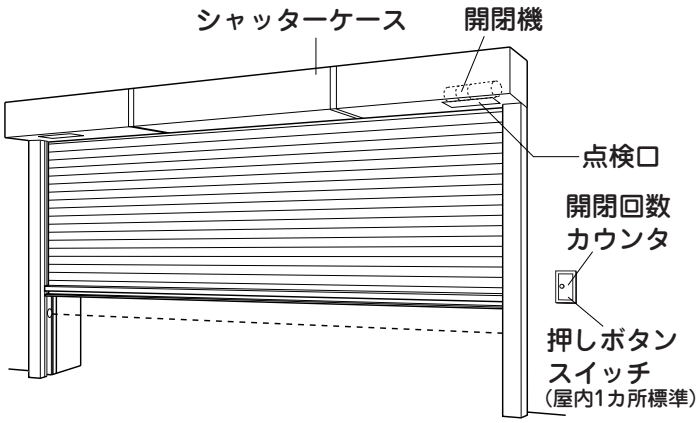
本体の名称

標準仕様

外観

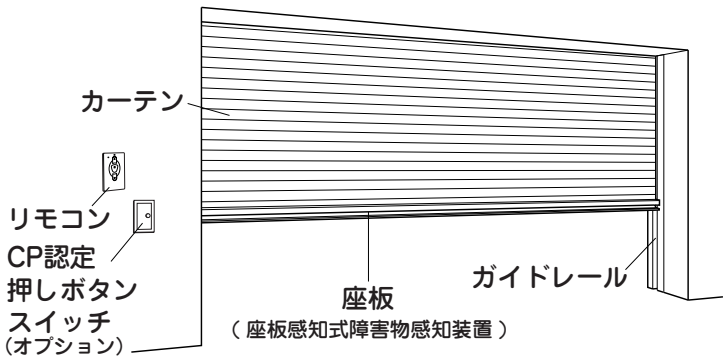


内観

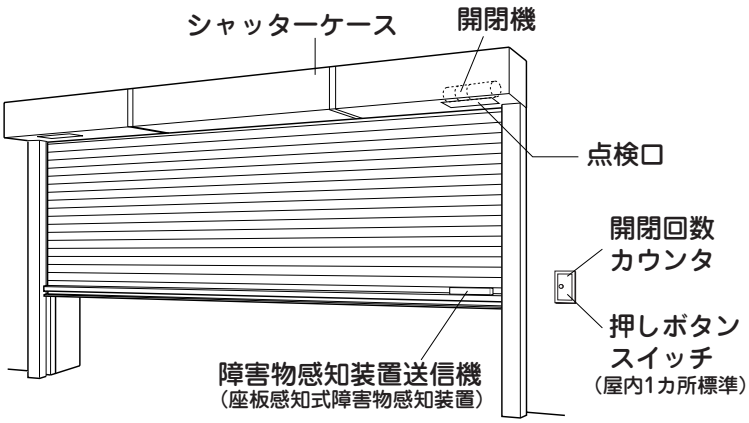


防火設備仕様

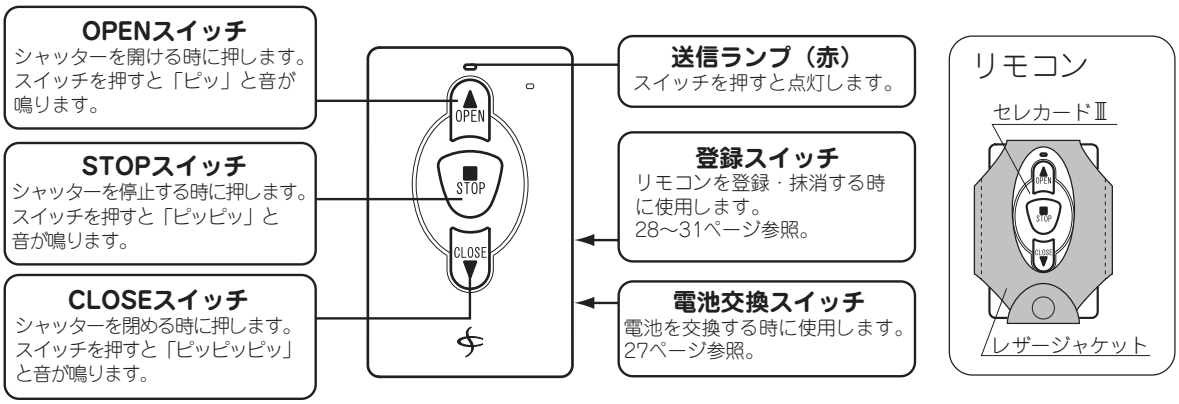
外観



内観



リモコン



● リモコン裏面の技術基準適合証明ラベルに記載しています㊟は、本機が総務省の技術基準に適合していることを表しています。

製品仕様

＜設計耐用回数および年数＞
10,000 回開閉／ 10 年

● 使用条件　周囲温度：－ 10℃～＋ 40℃
　　周囲湿度：RH85% 以下
　　周囲環境：粉塵、有害ガス、結露、凍結のないこと

●「設計耐用回数および年数」は保証値ではありません。保証期間については「製品保証」を参照してください。

●「設計耐用回数および年数」はお客様による適切な維持・管理とお手入れを行い、かつ専門技術者による定期的なメンテナンス（定期交換部品の交換、注油、調整など）を実施した場合の数値です。なお、沿岸部、温泉地帯、化学・薬品工場などの腐食性環境や、大気中の砂塵、煙などが商品に付着する場所、および高温、低温、多湿などの使用環境下では、記載数値を満足しないことがあります。

※ 正常なご使用方法でも、シャッターカーテン同士やガイドレールなどとの接触部分では、音、傷が発生することがあります。発生状況は使用頻度や使用環境に大きく左右されますが、シャッターの作動には問題ありません。ただし、錆などが発生する可能性があるため、定期的なお手入れの実施をお願いします。

製品本体

	標準仕様	防火設備仕様
スラット	溶融亜鉛めっき鋼板 t0.8	
オーダーフィルム（オプション）	塩化ビニル樹脂（不燃）	―
座板	アルミニウム合金押出形材	アルミニウム合金押出形材 ＋溶融亜鉛めっき鋼板 t1.2 巻き
		アルミニウム合金押出形材 ＋ステンレス鋼板 t1.5 巻き
ガイドレール	アルミニウム合金押出形材	溶融亜鉛めっき鋼板 t1.6
		ステンレス鋼板 t1.5
ケース	溶融亜鉛めっき鋼板 t0.8	
障害物感知装置	非接触式＋座板感知式	座板感知式 リチウムイオン電池 CR123A　1 個使用 電池寿命 10,000 開閉 / 約 10 年いずれか早い方
	標準の障害物感知装置に加え、光電管センサ式も追加可能（オプション）	
操作スイッチ	カードリモコン（セレカードⅢ） 2 枚標準装備（レザージャケット付き）	
	3 点式押しボタンスイッチ（屋内 1 ケ所標準）	
耐風圧強度	750Pa	

開閉機

	EGM-18GT2	EGM-25GT2	EGM-50GT2
使用電源	100V		
消費電力	80W	125W	250W

リモコン（セレカードⅢ）

電池	セレカードⅢ　コイン型リチウム電池CR2025×1個
電池寿命	約1年（1回1秒・1日10回使用）　※1
実用到達距離	10～50m程度　※2
送信出力	1mW以下
IDコード	約1677万通り
使用周波数	426MHz帯
使用周囲温度	－20℃～＋70℃
使用周囲湿度	90%以下（結露・氷結のないこと）

※1　使用状態により異なる場合があります。
　　製品出荷時にセットされている電池はテスト用のため、電池の消耗が早い場合があります。
※2　到達距離はテレビ・ラジオの送信所近辺などの強電界地域や、建物状態および受信機設置場所により変わります。
　　また、車のフロントガラスに熱反射ガラスを使用している場合や、緊急災害時などに使用される電波による影響などで、到達距離が短くなる場合があります。

防犯性能の高い建物部品について

防犯性能の高い建物部品とは

●「防犯性能の高い建物部品」は、メーカーがそれぞれの独自基準でうたう防犯性能とは異なり、官民合同会議が客観的な視点で評価した防犯性能です。
具体的には認定試験員が被害実態に基づき規定された細則による破壊再現を行い、5分の試験抵抗時間が認められたものでありますが、この「5分間」という基準は、抵抗力の強さを判断するための指標であって、破壊侵入に対して「5分間の抵抗時間」があるという意味ではありません。

防犯性能を維持するために

●「防犯性能の高い建物部品」についてもメンテナンスが必要です。
日常のチェックによる製品異常の早期発見が大切です。
特に、錠前、ラッチ部については施錠状態を確認しておく必要があります。
また、スラット交換、カギ交換等の際は、「防犯性能の高い建物部品」に使われる部品を使用する必要があります。

侵入盗に対する補償について

●「防犯性能の高い建物部品」は、客観的に評価された防犯性を有する製品で、侵入を完全に防ぐものではありません。従って、侵入盗の破壊による製品の破損が防犯性能の限度を超える破壊であれば瑕疵担保責任には該当しません。
通常のご使用での瑕疵担保補償は他の製品と同様に対応させていただきます。

使い方

警告 3～10ページの警告事項・注意事項を守ってご使用ください。これらを守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。

注　記

＜故障防止について＞

- リモコンのスイッチを押すときは、リモコン先端をシャッターに向け1～2秒軽く押してください。強く押し続けると故障の原因となります。
- リモコンを落としたり、乱暴に取り扱わないでください。
- リモコンを車のダッシュボードの上など高温になるところや、湿気の多いところに放置しないでください。
- 冬期に床面の水分が凍結して座板が床に凍りついた場合は、座板付近の氷を砕いてから開放操作してください。
- 雷が鳴り出したら早めにシャッターの電源(コンセントまたはブレーカー)を切ってください。
  落雷の大きさによっては動作しなくなるおそれがあります。

＜誤動作について＞

- リモコンに強い磁気を近づけないでください。リモコン内部の電子部品が磁気により正常に動作しない場合があります。
- 電波式無線中継局からの強電界の電波がリモコン装置に加わった場合、到達距離が短くなったり、動作しにくい場合があります。また非常に強力な電波（不法 CB 等)がリモコン装置に加わった場合は、誤動作するおそれがあります。
- 静電気等の影響により正常に動作しない場合があります。

＜保管・電池交換について＞

- 長時間ご使用にならない場合は、電波障害等による誤動作を防ぐため、シャッターの電源（コンセントまたはブレーカー）を切ってください。また、腐食防止のためカードリモコンから電池を外してください。
- リモコンはお子様の手の届かない安全なところに保管してください。
  電池を飲み込んだり、誤った操作をして生命にかかわる事故になる場合があります。万一、電池を飲み込んだ場合には直ちに医師にご相談ください。
- 電池は分解、加工、充電、ショート、加熱、火中投入などしないでください。液漏れ、発火、発熱、破裂の原因となります。
- 電池を破棄する場合はテープなどで巻いて絶縁してください。
  他の金属や電池を混ぜると発火、破裂の原因となります。

通常操作

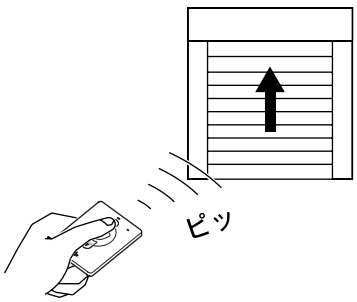
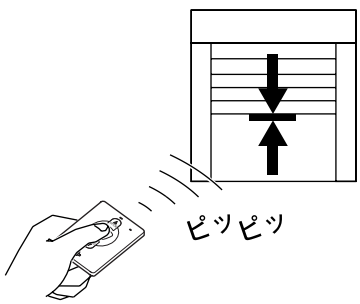
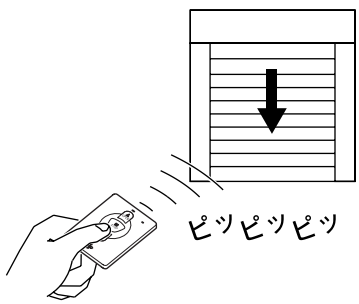
警告

- **3～10ページの警告事項・注意事項を守ってご使用ください。これらを守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。**
- **シャッター降下中に「開」ボタンを押してもシャッターは上昇しません。思わぬ事故を引き起こす場合があります。シャッター降下中、上昇させたい場合は「停」ボタンを押した後、「開」ボタンを押してください。**

注　記

- **「開」と「閉」のボタンは絶対同時に押さないでください。故障の原因になります。**
- **5分以上の連続開閉はしないでください。保護装置により開閉機が止まる場合があります。この場合は10分程休ませると再び開閉できます。**
- **リモコンには、スイッチ1回押しの設定と、誤操作防止のためのスイッチ2回押しの設定の2種類あります。**
  該当する方の使い方をご確認ください。設定はお客様にて切り替えることも可能です。詳細は、33ページ「スイッチ2回押し操作への切替方法」を参照してください。

リモコンを使っての操作

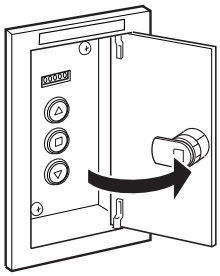
開けるとき	停止するとき	閉めるとき
● **スイッチ1回押しの場合** 「OPEN」スイッチを1回押す ● **スイッチ2回押しの場合** 「OPEN」スイッチを2回押す シャッターが上昇し、全開位置（完全に開いた位置）で自動停止します。 	「STOP」スイッチを1回押す（スイッチ1回押し／2回押し共通） シャッターが停止します。 	● **スイッチ1回押しの場合** 「CLOSE」スイッチを1回押す ● **スイッチ2回押しの場合** 「CLOSE」スイッチを2回押す シャッターが降下し、全閉位置（完全に閉じた位置）で自動停止します。 

- スイッチの早押しや連続押しを3秒以上行った場合、リモコン操作を受け付けない場合がありますが、故障ではありません。
  これは、無線設備規制に基づくもので、2秒間経つと、リモコン操作を受け付けるようになります。
- 2回押しのときの2回目は、リモコン上部のランプが点滅している間（約3秒間）に押してください。

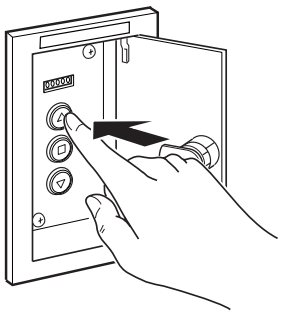
押しボタンスイッチを使っての操作

1 鍵を差し込み右にまわします。

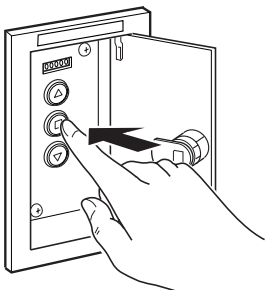
2 フタをあけます。



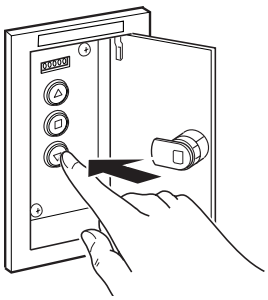
3 上昇させるときは､｢開｣ボタンを押します。



4 上昇または降下を停止するときは、「停」ボタンを押します。



5 降下させるときは､｢閉｣ボタンを押します。



6 フタをしめます。

7 鍵を左にまわし､ぬきます。

8 フタがロックされているか確認します。

9 鍵を大切に保管します。

障害物感知装置について

● 障害物感知装置は、障害物を感知すると、シャッターの動作を自動停止させます。

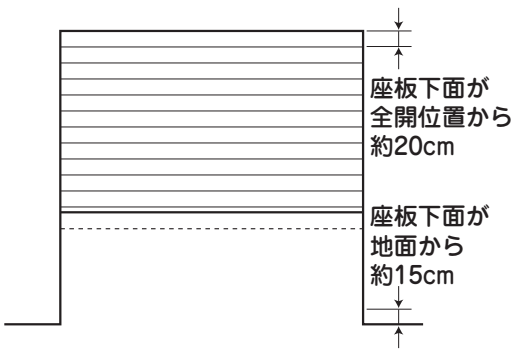
● 各仕様の装備は、下記の通りです。
　標準仕様―――非接触式障害物感知装置＋座板感知式障害物感知装置
　防火設備仕様―座板感知式障害物感知装置
　※光電管センサ式はオプションです。

障害物の感知エリア

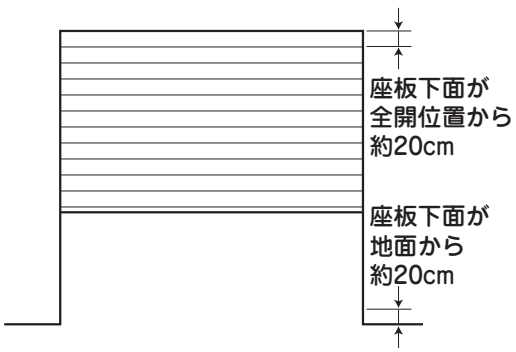
● 下記の範囲では障害物が当たっても障害物感知装置は作動しません。

標準仕様

＜非接触式障害物感知装置＞

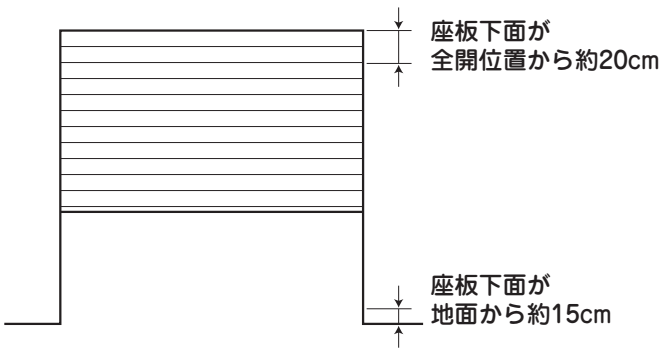


＜座板感知式障害物感知装置＞



防火設備仕様

＜座板感知式障害物感知装置＞



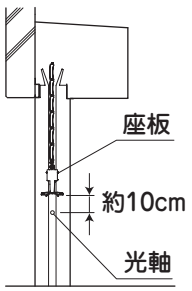
障害物感知装置が障害物を感知したときの動作

非接触式障害物感知装置（標準仕様）

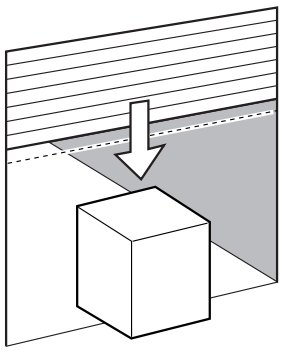
● 非接触式障害物感知装置はシャッターが降下中に、センサが障害物を感知するとシャッターを自動停止させます。

注　記　● **座板下面が濡れていたり、シャッターの下に水たまりがあると誤作動の原因となります。**

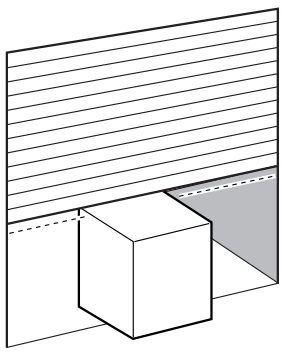
＜光軸位置＞
座板の約 10cm 下に光軸があります。
障害物が光軸を遮ったときに感知します。
光軸を遮らなかった場合、障害物を感知できません。



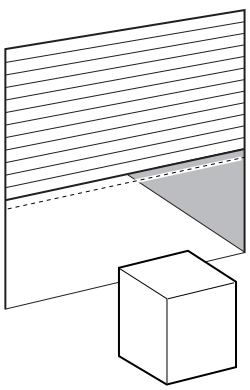
1 シャッター降下



2 センサが障害物を感知すると停止します。



3 障害物を取り除いてください。通常どおり使用できます。



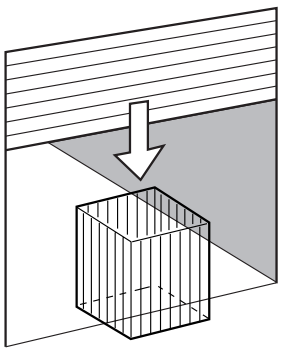
● 非接触式障害物感知装置の可動光電センサの感知ラインは座板の真下約10cmで、シャッター降下と共に移動します。
● 非接触式障害物感知装置は、上昇中は障害物を感知しません。
● 非接触式障害物感知装置は、隙間のある籠や透明なガラス等の光を透す障害物を感知しない場合があります。
● 非接触式障害物感知装置は、座板全面に対して感知するものではありません。

※ 非接触式障害物感知装置の他に、座板感知式障害物感知装置がついています。（詳細は 21 ページをご覧ください）

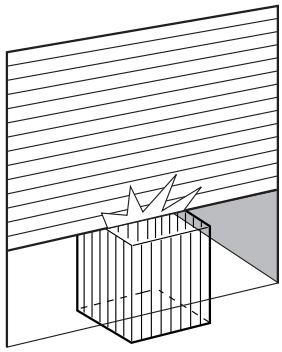
座板感知式障害物感知装置（標準・防火設備仕様）

● 非接触式障害物感知装置は、隙間のあるカゴや透明なガラス等の光を透す障害物を感知しない場合があります。この場合、座板感知式障害物感知装置にて障害物を感知し、シャッターを自動停止させます。

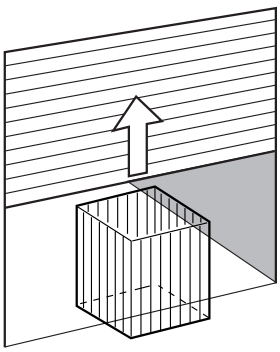
1 シャッター降下



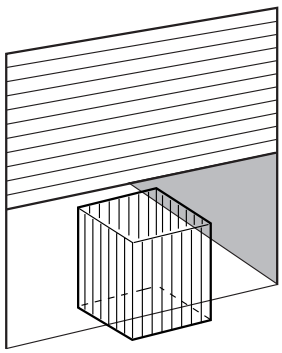
2 座板（カーテン下端）に障害物があたります。



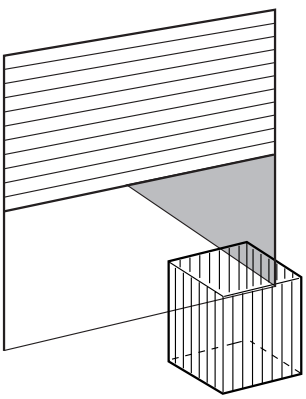
3 上昇します



4 停止します。



5 障害物を取り除いてください。
通常どおり使用できます。

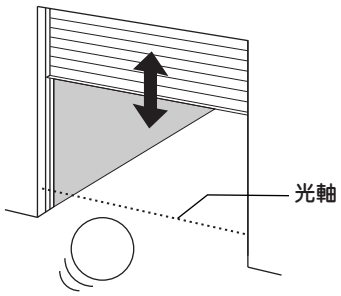


● 座板感知式障害物感知装置は、上昇中は障害物を感知しません。

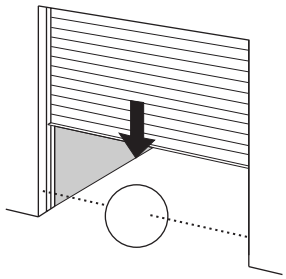
光電管センサ式（オプション）

- シャッター閉鎖中、センサが障害物を感知するとシャッターは停止します。障害物が光軸を遮ることで障害物感知機能がはたらきます。
- 光電管センサの光軸以外の部分では障害物感知装置は動作しません。
- 光電管センサの光軸上に障害物があると、リモコンまたは押しボタンスイッチを押してもシャッターは降下しません。
- 光電管センサ式障害物感知装置をお取り付けされている場合は、別冊の「光電管センサ取扱説明書」をご覧ください

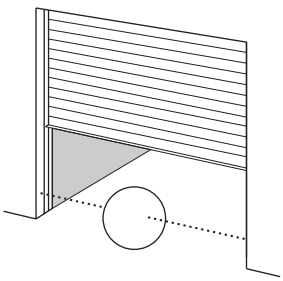
1 シャッター降下



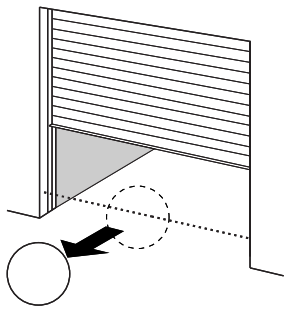
2 光電管センサの光軸を障害物が遮ると



3 シャッターは停止します。



4 障害物を取り除いてください。通常どおり使用できます。



停電時の操作

警告 緊急にシャッターを動作させる必要があるとき以外は、停電が復旧するのを待ってから通常操作を行ってください。やむを得ず操作する場合は下記の事項を確認してください。

- 操作をする前にシャッターの電源（コンセントまたはブレーカー）を必ず切ってください。
- 高所作業を伴う場合は、ヘルメット・安全帯の着用、必要な足場の確保など、墜落・転落事故を予防してください。
- シャッターの下に、人や物がない事を確認してから操作してください。
- 操作が終了するまで、他の人がリモコンや押しボタンスイッチを操作しないように周知してください。
- 点検口を開けるときは、ショートリンクチェーンなどが落下してくる場合がありますので、ご注意ください。（ショートリンク仕様のみ）
- 23～24ページの手順に従って操作してください。手順どおりに操作しなかった場合、思わぬ事故になる場合があります。
- お客様が停電時の操作をする際、少しでも不明な点、不安な点がある場合は44ページ記載の文化シヤッターサービス株式会社まで作業をご依頼ください（有償）。

注　記

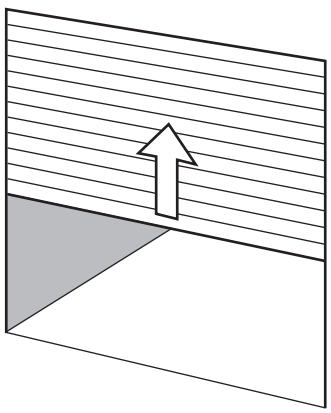
- 開けるときは、所定の高さでとめ、巻き上げすぎないようにしてください。

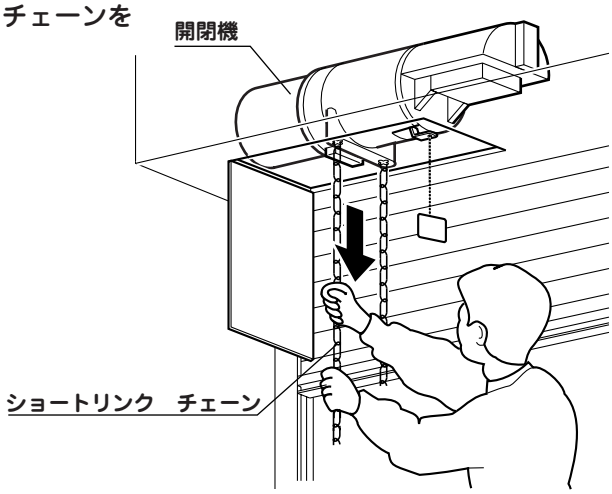
点検口を開ける

点検口を開けます。点検口はシャッターが収納されるシャッターケースの下面，または天井面にあります。

開け方　全タイプ共通

カーテンから遠い方のショートリンクチェーンを引きます。シャッターが開きます。

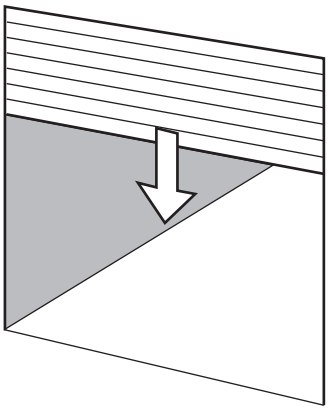


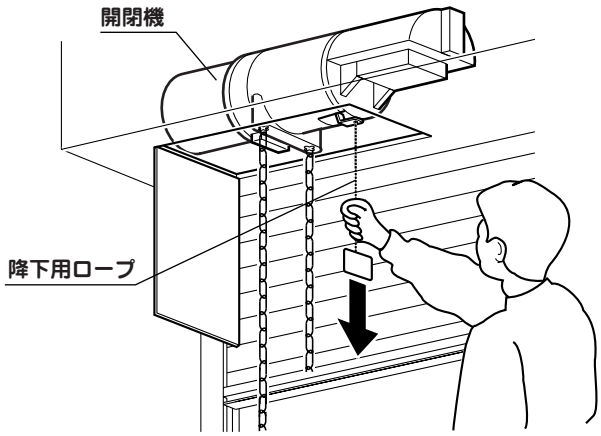


閉め方　全タイプ共通

● 座板下面が地面についたあとも降下操作し続けると、地面に押し込みすぎて、カーテン等を破損するおそれがありますのでご注意ください。

降下用ロープを下方に引きます。シャッターが閉まります。降下用ロープを放すとシャッターは止まります。

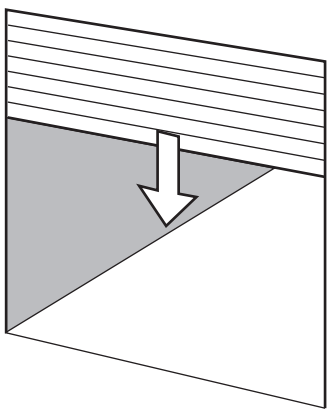


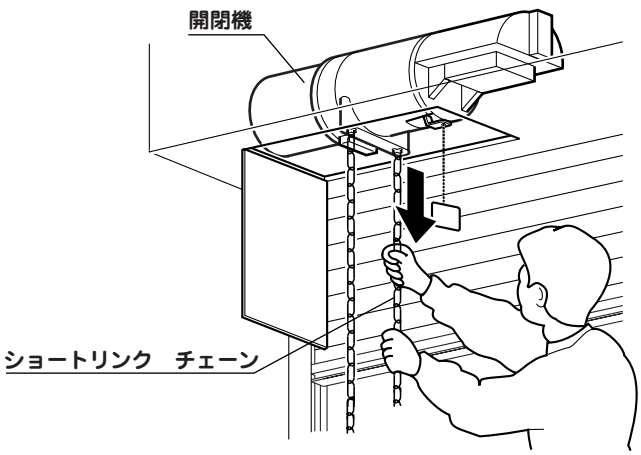


※ 降下用ロープを引いてシャッターを降ろしているときは障害物感知の機能は働きません。

● 降下用ロープで閉めにくい場合は、ショートリンクチェーンをご使用ください。（開閉機型式 EGM-18GT2-DB のみ）

カーテン側のショートリンクチェーンを下方に引きます。シャッターが閉まります。



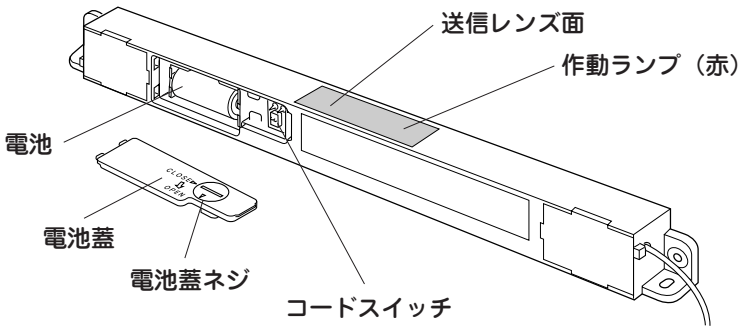


オプション

防火設備仕様の障害物感知装置の電池交換について

⚠ 注意 **電池交換時は障害物感知装置が作動しないため、電池交換をするときは、シャッターを全閉状態（シャッターが完全に閉じた状態）にして行ってください。**

● 障害物感知装置の送信機は電池を使用しているため、定期的な電池交換が必要です。



● 電池が消耗すると送信時（座板スイッチが床から離れたとき）に以下のような状態になります。このような状態になったらすぐ電池交換をしてください。

・押しボタンを押し続けていないとシャッターが動作しない。
・送信機の作動ランプが２秒間点滅する。（電池が正常なときは２秒間点灯）
・制御盤内部のブザーが 18 秒間断続的に鳴り続ける。

電池交換の手順

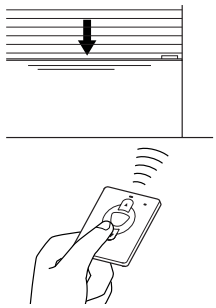
● 電池交換時は障害物感知装置が作動しないため、電池交換をするときは、シャッターを全閉位置（シャッターが完全に閉じた状態）にして行なってください。

注　記

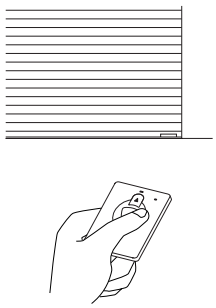
- **コードスイッチはさわらないでください。**
- **＋，－の極性を間違わないでください。**
- **電池は新しいものと交換してください。**
- **電池蓋はしっかり閉めてください。電池蓋に隙間があると水が入り作動しなくなるおそれがあります。**

● 電池はリチウム電池 CR123A をご使用ください（１個）

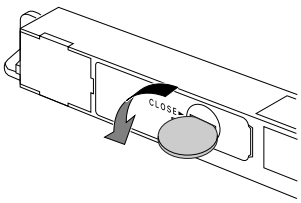
1 シャッターの下に障害物がないことを確認して、リモコンの「CLOSE」スイッチまたは押しボタンスイッチの「閉」ボタンを押し続けてください。シャッターが降下しはじめます。



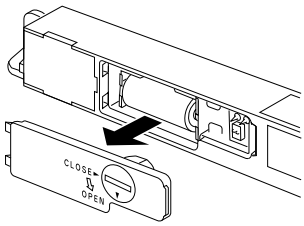
2 シャッターが降下し、全閉位置でリモコンの「CLOSE」スイッチまたは押しボタンスイッチの「閉」ボタンから手を離してください。シャッターが停止してから下記の手順にしたがって電池交換をしてください。



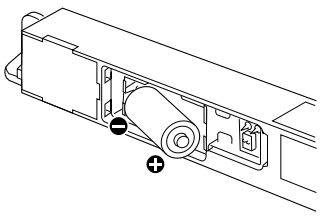
3 電池蓋をネジをコインでまわします。



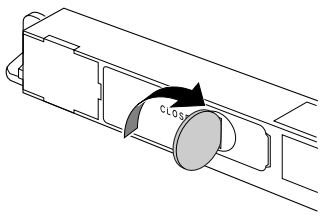
4 電池蓋を外します。



5 新しい電池と交換します。



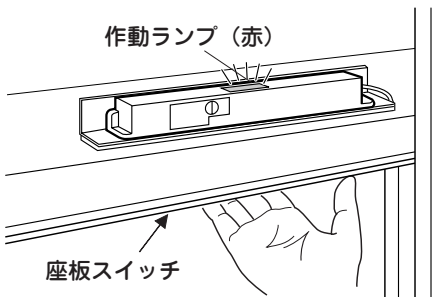
6 電池蓋をつけて、電池蓋ネジをコインでまわし、元に戻します。



作動確認

1. まず、電池交換直後は「OPEN」スイッチを押し続け、送信機が腰の辺りにくる位置で「OPEN」スイッチから手を離してください。
   シャッターが止まらない場合は「STOP」スイッチを押してください。
2. 次に、座板スイッチを持ち上げて、作動確認をしてください。作動ランプが２秒間点灯したら手を離し、再度２秒間点灯すれば正常です。
3. 最後に「CLOSE」スイッチを押した後、座板スイッチを持ち上げて、シャッターが停止することを確認してください。
   この時、シャッターの下に入らないでください。

※ 作動ランプが点灯しなかったり、手を離したときに２秒間点滅する場合は、電池が正常に組み込まれていない可能性があります。
電池を正しく組み込んでも正常に作動しない場合は、44ページに記載してある文化シヤッターサービス株式会社にご連絡ください。



リモコンの電池交換

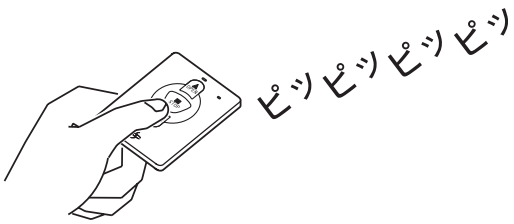
● 電池が消耗すると、到達距離が短くなるなど正常な動作をしません。
電池は、通常１年を目安に交換してください。

注　記

● **電池は指定のものを使用してください。**
（コイン形リチウム電池　　CR2025 型× 1 個）
● **＋、－の極性を間違えないでください。**

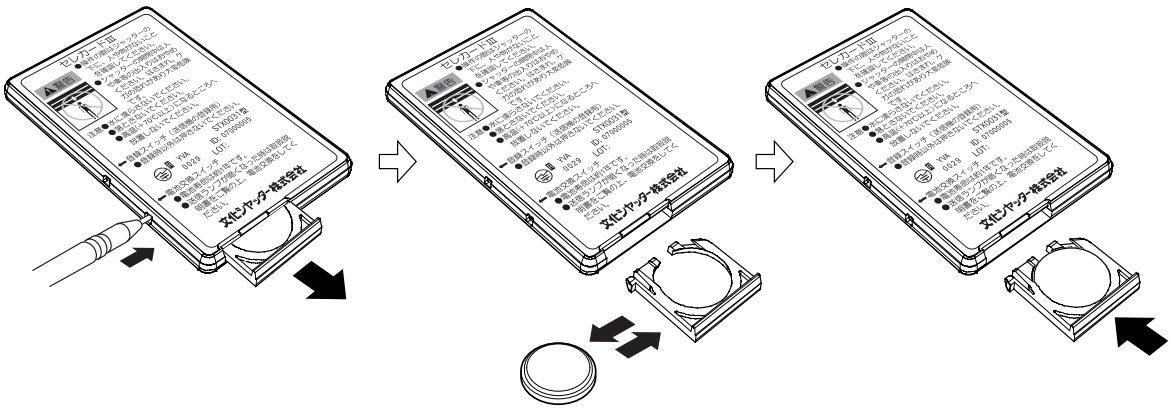
電池消耗時の確認動作

スイッチを押している間、音が鳴りつづける場合は、電池容量が低下しています。



電池交換方法

● 電池が落下しないように、机の上で交換してください。



側面の電池交換スイッチをボールペン等の先で押すと電池ケースがスライドします。電池ケースをリモコンから引き出してください。

新しい電池と交換してください。
電池の＋マークは下になります。

電池ケースを元に戻してください。

リモコン（ID コード）を追加登録する方法

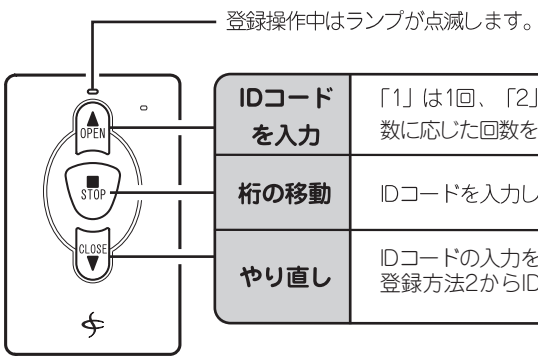
- 現在ご使用中のリモコンを使って、新しいリモコンの登録をしてください。
  新しいリモコンから直接登録はできません。
- リモコンの追加登録は、お客様にて行うことも可能です。
- 当社においても有償にて請負いいたします。44ページ記載の文化シャッターサービス株式会社にご連絡ください。

⚠ 注意

- **リモコンの追加登録は、シャッターの見えるところで行ってください。シャッターにリモコンの電波が届かないところでは、リモコンの追加登録はできません。**
- **登録操作中のリモコンからのシャッター操作は無効となります。**
- **登録・抹消以外の目的で登録スイッチを操作しないでください。**

ID コードを入力するときのスイッチの役割

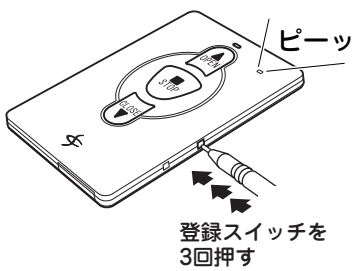
現在ご使用中のリモコン



IDコードを入力	「1」は1回、「2」は2回・・・。 数に応じた回数を押す。「0」は押さない。
桁の移動	IDコードを入力したあと、次の桁に移動するとき1回押す。
やり直し	IDコードの入力を間違えた場合に、このスイッチを押して、もう1度登録方法2からIDコードの入力をやり直してください。

1 現在ご使用中のリモコンの登録スイッチを 3 回押すと、ブザーが 1 秒間鳴ります。

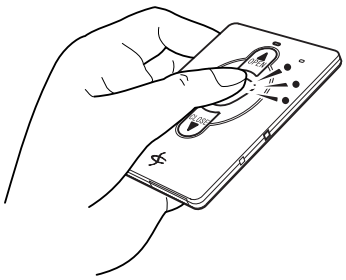
現在ご使用中のリモコン



登録スイッチを押してから 1 分間何も操作しないと登録操作は無効となります。登録方法1からやり直してください。

2 新しいリモコンの裏面に記載してあるIDコードを、現在ご使用中のリモコンを使って下記の手順で入力します。

現在ご使用中のリモコン



新しいリモコン

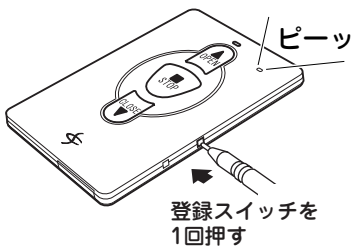
入力回数を間違えた場合には、CLOSEスイッチを押してもう1度登録方法2からIDコードの入力をやり直してください。
登録を途中で中止したい場合には、1分間リモコンを操作しないでください。
（1分後に登録操作が解除されてシャッター操作が可能になります）

例　登録する新しいリモコンのIDコードが「07650043」の場合

IDコード	0	→	7	→	6	→	5	→	0	→	0	→	4	→	3	
スイッチの操作	何も押さない	STOPを1回押す	OPENを7回押す	STOPを1回押す	OPENを6回押す	STOPを1回押す	OPENを5回押す	STOPを1回押す	何も押さない	STOPを1回押す	何も押さない	STOPを1回押す	OPENを4回押す	STOPを1回押す	OPENを3回押す	STOPを1回押す

3 現在ご使用中のリモコンの登録スイッチを1回押します。ブザーが1秒間鳴り、登録が完了です。登録が完了したら、新しいリモコンでシャッターの開閉をして動くことを確認してください。シャッターが動かない場合は、再度登録方法1からやり直してください。

現在ご使用中のリモコン



※ 新しいリモコンでシャッターが開閉しない場合、受信機の最大登録台数が越えていることも考えられます。

リモコン（ID コード）を抹消する方法

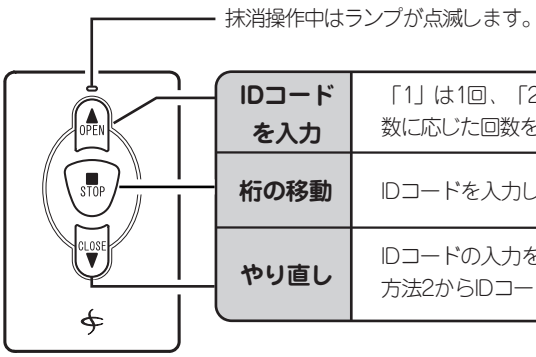
- 現在ご使用中のリモコンを使って、リモコンの抹消をします。
- リモコンの抹消は、お客様にて行っていただきます。
- 当社においても有償にて請負いいたします。44ページ記載の文化シヤッターサービス株式会社にご連絡ください。

⚠ 注意

- **リモコンを盗難・紛失した場合は、このページの手順にしたがい紛失したリモコンを使えないようにする必要がありますが、その際紛失したリモコンのID コードが必要となります。IDコードがわからない場合は、44ページに記載してある文化シヤッターサービス株式会社までご連絡ください。**
- **リモコンの抹消は、シャッターの見えるところで行ってください。シャッターにリモコンの電波が届かないところでは、リモコンの抹消はできません。**
- **抹消操作中のリモコンからのシャッター操作は無効となります。**
- **登録・抹消以外の目的で登録スイッチを操作しないでください。**

ID コードを入力するときのスイッチの役割

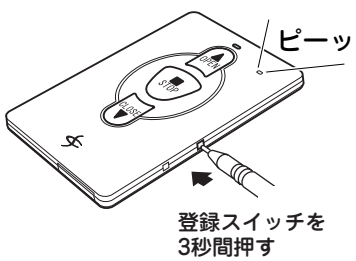
現在ご使用中のリモコン



IDコードを入力	「1」は1回、「2」は2回・・・。 数に応じた回数を押す。「0」は押さない。
桁の移動	IDコードを入力したあと、次の桁に移動するとき1回押す。
やり直し	IDコードの入力を間違えた場合に、このスイッチを押してもう1度抹消方法2からIDコードの入力をやり直してください。

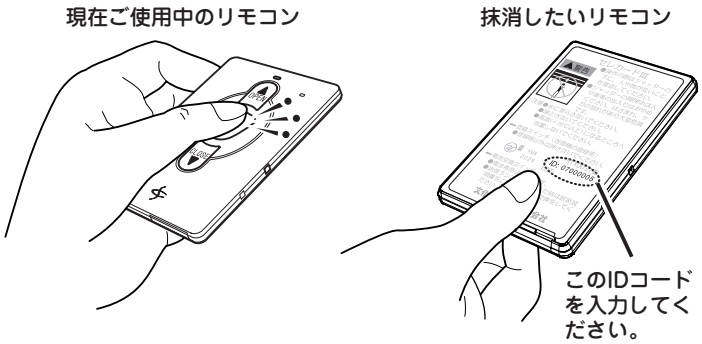
1 現在ご使用中のリモコンの登録スイッチを3秒間押すと、ブザーが1秒間鳴ります。

現在ご使用中のリモコン



登録スイッチを押してから1分間何も操作しないと抹消操作は無効となります。抹消方法1からやり直してください。

2 抹消したいリモコンの裏面に記載してあるIDコードを、現在ご使用中のリモコンを使って下記の手順で入力します。紛失したリモコンのIDコードは、32ページの「リモコン（IDコード）の管理表」に貼付けたIDコードシールを見て、IDコードの入力をしてください。

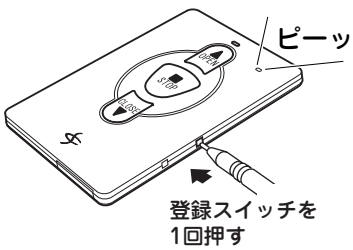


入力回数を間違えた場合には、CLOSEスイッチを押してもう1度抹消方法2からIDコードの入力をやり直してください。
抹消を途中で中止したい場合には、1分間リモコンを操作しないでください。
（1分後に抹消操作が解除されてシャッター操作が可能になります）

（例） 抹消したいリモコンのIDコードが「07650043」の場合

IDコード	0	→	7	→	6	→	5	→	0	→	0	→	4	→	3	
スイッチの操作	何も押さない	STOPを1回押す	OPENを7回押す	STOPを1回押す	OPENを6回押す	STOPを1回押す	OPENを5回押す	STOPを1回押す	何も押さない	STOPを1回押す	何も押さない	STOPを1回押す	OPENを4回押す	STOPを1回押す	OPENを3回押す	STOPを1回押す

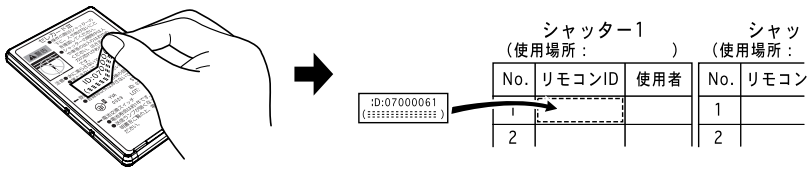
3 現在ご使用中のリモコンの登録スイッチを1回押します。ブザーが1秒間鳴り、抹消が完了です。抹消したリモコンがお手元にある場合は、抹消したリモコンでシャッターの開閉をして動かないことを確認してください。シャッターが動く場合は、再度抹消方法1からやり直してください。



※ 抹消したリモコンがお手元になく、より確実に抹消したい場合は、44ページに記載してある文化シヤッターサービス株式会社にご依頼ください。すべてのリモコンの登録をリセットし、再登録し直します。（有償）

リモコン（ID コード）の管理のお願い

- リモコンを紛失した場合、もしくは盗難された場合にリモコン（IDコード）の登録を受信機から抹消する必要があります。リモコン裏面のIDコードシールを下表に必ず貼付してください。（シールが無い場合には、登録が抹消できない可能性がありますのでご了承願います）
- リモコン裏面のIDコードシールを下表の「リモコンID」の欄へ貼付の上、リモコン紛失時においてIDコードが照合できるように使用者名を下表へご記入ください。
- シールを紛失された場合には、リモコン裏面のIDコードを「リモコンID」の欄へご記入ください。



リモコン（ID コード）の管理表

シャッター1
（使用場所：　　）

No.	リモコンID	使用者
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

シャッター2
（使用場所：　　）

No.	リモコンID	使用者
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

シャッター3
（使用場所：　　）

No.	リモコンID	使用者
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

スイッチ２回押し操作への切替方法

- 誤ってスイッチが押されることを回避するために、「OPEN スイッチ」および「CLOSE スイッチ」を２回押すことで操作できるように設定を切り替えることができます。（STOP スイッチは１回押し操作のままです）
- リモコンを携帯される場合など、誤ってスイッチが押されると、意図せずシャッターを動作させてしまう可能性があります。予め設定を変更してご使用いただくことをお勧めします。
- 本設定は、お客様にて行っていただきます。
- 当社においても有償にて請負いいたします。44 ページに記載してある文化シヤッターサービス 株式会社にご連絡ください。

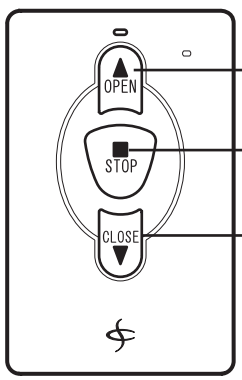
⚠ 注意

- **購入時の初期設定は、スイッチ１回押し操作の設定です。**
- **STOP スイッチを操作して設定を行います。**
- **設定中に STOP 以外のスイッチが押されると、切替操作が無効になります。**
- **設定中は、リモコンからのシャッター停止操作が無効になります。**

注　記

- **各手順の操作は、前の手順の操作後３秒以内に行ってください。３秒以内に行わないと、切替操作は無効になります。無効になった場合は、切替方法１からやり直してください。**
- **スイッチ２回押し操作からスイッチ１回押し操作に戻す場合も、この切替操作を行ってください。**

切替操作による各スイッチの操作方法



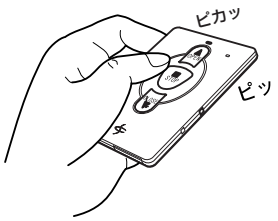
	スイッチ1回押し操作時	スイッチ2回押し操作時
OPEN スイッチ	1回	3秒以内に 2回
STOP スイッチ	1回	1回
CLOSE スイッチ	1回	3秒以内に 2回

1 STOPスイッチを5秒間押すと、ブザーが2回鳴ります。
（ランプも2回点滅します）

3秒以内に

⇩

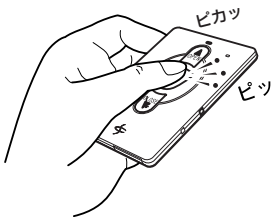
2 STOPスイッチを離すと、ブザーが1回鳴ります。
（ランプも1回点滅します）



3秒以内に

⇩

3 STOPスイッチを1回押すと、ブザーが1回鳴ります。
（ランプも1回点滅します）



3秒以内に

⇩

4 もう一度、STOPスイッチを1回押すと、ブザーが3回鳴ります。
（ランプも3回点滅します）

3秒以内に

⇩

5 最後に、STOPスイッチを3回押すと、ブザーが5回鳴り、設定が完了します。
（ランプも5回点滅します）

5. お手入れ方法

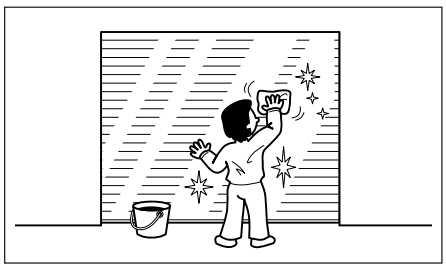
警告 3～10ページの警告事項・注意事項を守ってご使用ください。これらを守らないと人身事故や重大事故につながる場合があります。

お手入れの仕方

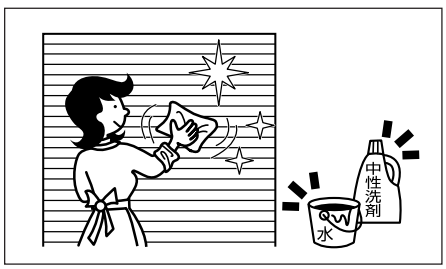
注　記

- 製品に直接水をかけないでください。製品に水をかけるとサビの発生や消耗が促進されたりします。また電装品が漏電して、勝手に動作したり感電するなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 製品へのキズを避けるため、金属ブラシ、たわし、みがき粉等の硬いものでこすらないでください。製品にキズが付くと、錆の原因となります。
  お手入れの際は、柔らかい布をご使用ください。
- 酸性またはアルカリ性の洗剤、ベンジン、シンナー、ガソリンなどの有機溶剤は、変色や腐食の原因となりますので使用しないでください。

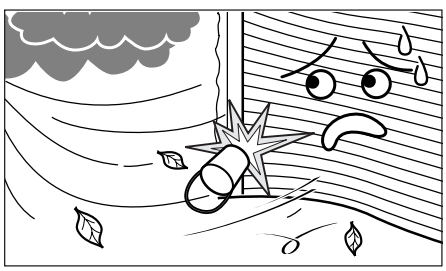
スチール、ステンレス、アルミ部品共通のお手入れ



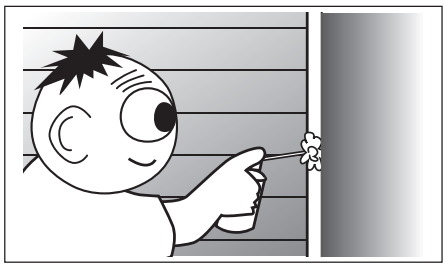
雨などにより、泥、ほこりなどが付着しますと錆の発生を早め、美観上からも好ましくありません。カーテンおよびガイドレールが汚れた場合は、ぬれた布などで汚れを落とした後、固く絞った布などで水分をふきとってください。



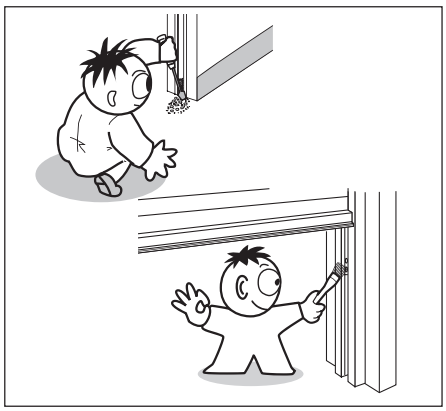
落ちない汚れは、ぬるま湯で薄めた中性洗剤を使用した後、最後に乾いた布で水分をふき取ってください。



強風の際（特に台風の場合）は、塩分が内陸部まで飛来することがあるので、風が収まった後、できるだけ早い時期のお手入れが必要です。



レールとカーテンの接触部に汚れがつくと開閉時に音なりが発生する場合があります。35ページのお手入れをした後、シャッターを閉鎖した状態でカーテンとガイドレールのスキ間に文化シヤッター製シャッターオイル（別売）をスプレーしてください。
（オイルがつきすぎた場合はふきとってください）
シャッターオイルは、可動光電センサを避けてスプレーしてください。



ガイドレール底部には泥などがたまりますので、一週間に一度くらい除去してください。
標準仕様では非接触式障害物感知装置（可動光電センサ）が設置されています。
センサの表面に泥やほこりがつくと誤作動する場合があります。定期的にセンサ表面をハケのようなもので除去してください。
シンナーなどの有機溶剤は使用しないでください。センサ表面が傷つき、正常に動作しなくなります。

ステンレス部品のお手入れ

- ステンレスは錆びない素材と考えられがちですが、絶対に錆びないわけではありません。しかも、通常、塗装の無い素地の状態で用いられますので、お手入れも頻繁に必要です。
- クリア塗装されたステンレスについても、塗装の無い、素地と同様のお手入れをお願いします。
- 初期の錆びについては、ぬるま湯で薄めた中性洗剤を使用したのち水ぶきし、最後に乾いた布で水分を拭き取ってください。
- 泥、ほこり、塩水、排気ガス中の有害成分、洗浄薬液の付着や、もらい錆びは、ステンレス自身の錆びに発展しますので、早めのお手入れが必要です。

革製品のお手入れ

- リモコンのレザージャケットのお手入れは、乾いた柔らかい布をご使用ください。
- 色落ちする場合がありますので、レザージャケットを濡らさないでください。

お手入れ回数の目安

- 清掃は下記の基準をめやすとし、定期的に行ってください。

（1年あたりの回数）

	海岸地帯	工業地帯	市街地	田園地帯
スチール（塗装品）	1～4	1～3	1～2	1
ステンレス（素地）	10～12	8～10	8～10	4～6
アルミ（クリア塗装）	1～4	1～3	1	1

日常点検

警告 必ず以下の日常点検を行ってください。日常点検を行わないと人身事故や重大事故になる場合があります。
日常点検で不具合を発見したら、ただちに使用を止め、44ページ記載の文化シヤッターサービス株式会社に修理をご依頼ください（有償）。

1 表示ラベルの脱落、破れ、はがれなどがないか確認してください。読めなかったり、正しく貼られていなかったり、破損していたりしたら、新しいラベルと交換してください。

2 フラットガレージシャッターポルティエの状態について、以下の事項を確認してください。
- 今までと違った音がしないこと。
- 今までと違った振動がしないこと。
- 外観に使用上有害な変形がないこと。
- 全開・全閉で停止すること。
- 停止してからカーテンが滑り降りないこと。

3 カーテンの下に障害物がある場合は、障害物を取り除いてから操作してください。

4 フラットガレージシャッターポルティエの操作が容易に行える状態であることを確認してください。
操作スイッチの前に物がある場合は、操作の妨げにならない場所に物を移動させてください。

定期点検と定期的な部品交換について

● フラットガレージシャッターポルティエは、長期間に渡って使用するものなので、安全性維持のためには定期点検及び定期的な部品交換が必要です。

警告

● 定期点検と定期的な部品交換は、必ず行ってください。適切な定期点検や定期的な部品交換を行わないと、フラットガレージシャッターポルティエが開閉できないだけでなく、急速降下などの重大事故につながる場合があります。

● 定期点検では、動作状況およびカーテン・ガイドレール部・シャフト・電装部・開閉機・各チェーン部等の機能・性能の保持のために各部品の損傷・磨耗状態をチェックし、必要に応じて調整・修復・交換・注油・ボルト等の増し締めなどを実施します。

定期点検の回数

● 定期点検の回数は、下記の基準を目安としてください。

● 開閉回数はお客様にてご確認できます。押しボタンスイッチの開閉回数カウンタをご確認ください。

一日当たりの開閉頻度	定期点検回数（年）
1～2回	2回
3回以上	打合せによる

注　記

実際には、シャッターの開閉回数、大きさ、経過年数、使用条件および用途により点検回数がことなりますので最寄りの文化シヤッター株式会社の支店・営業所、または44ページに記載してある文化シヤッターサービス株式会社にお問い合わせください。

警告

腐食が進みやすい環境における定期点検の必要性について

● 沿岸地区や高湿な使用環境などの腐食が進みやすい環境では、一日当たりの開閉頻度に関係なく、1年に2回から4回程度の点検が必要です。（回数は状況により異なります）

● 腐食への対応を行わないと、錆により開閉機とシャフトをつなぐローラチェーンが破断し、カーテンの急速降下へ至るなど、重大事故につながるおそれがあります。

定期的な部品交換について（有償）

● フラットガレージシャッターポルティエは、38ページに記載の定期点検を実施したうえで、定期的な部品交換が必要です。

● フラットガレージシャッターポルティエに使用されている部品には、表面上は正常に見えても経年劣化等により機能が低下するものがあるためです。

● 以下の部品は動作安全上、特に保安部品として定期的に交換する事が不可欠です。
※交換時期は定期点検契約に基づいた点検・整備が行われている場合の目安です。
※交換時期は目安であり、使用状態、使用環境によって大きく異なります。
※交換回数は押しボタンスイッチのカウンタで確認してください。

〔定期交換部品と交換時期目安〕

定期交換部品	交換時期目安
開閉機制御盤	10,000 開閉／ 10 年いずれか早い方
可動光電センサ	
障害物感知装置送信機	
障害物感知装置受信機	
障害物感知装置座板スイッチ	
防火設備仕様の障害物感知装置の電池	
リモコン受信機	
リモコンの電池	約 1 年
座板	10,000 開閉／ 10 年いずれか早い方
ブレーキ	5,000 開閉／ 5 年いずれか早い方
消音帯	5,000 開閉／ 5 年いずれか早い方
急降下停止装置	10,000 開閉／ 10 年いずれか早い方
リミットスイッチ	
ローラチェーン	
開閉機	
カーテン	

※ 回数・年数は部品毎の交換の目安を示すものであり、製品全体の耐久回数を示すものではありません。

※「定期交換部品および補修部品」とは、「経過年数、開閉回数などにより、製品機能および性能を損なうおそれがあらかじめ想定できる部品」です。「定期点検時に異常が認められたもの」「不時の故障が発生した場合」については、その都度、交換または修理を行います。

※ 定期交換部品は予告なく変更する場合があります。

定期点検契約について

警告

● 定期点検と定期的な部品交換には専門知識が必要ですので、最寄りの文化シヤッター株式会社の支店・営業所、または文化シヤッターサービス株式会社にご依頼ください。
最寄りの文化シヤッター株式会社の支店・営業所、または文化シヤッターサービス株式会社以外の点検は、人身事故や重大事故につながる場合があります。

● 最寄りの文化シヤッター株式会社の支店・営業所、または文化シヤッターサービス株式会社と「定期点検契約」を結んでいただくと、お客様のご利用状況に合わせ、年に数回の定期点検を実施します。
詳しくは最寄りの文化シヤッター株式会社の支店・営業所、または 44 ページに記載してある文化シヤッターサービス株式会社にお問い合わせください。

● 定期点検は下記報告書に基づき実施します。

現場手書き用フォーム　　No.＿＿＿

平成　年　月　日

定 期 点 検 報 告 書

御中

下記のとおり点検の結果をご報告いたします。

名　称			
所在地			
点検日	平成　年　月　日	立会人氏名	
保守点検専門技術者認定番号	No.		
点検者	印	点検責任者	印

〒175－0082
東京都板橋区高島平1－83－1
文化シヤッターサービス株式会社
TEL 03-5921-3371～3

種別			点検項目	F						特記事項
				符号						
				機種						
				W						
				H						
電動式シャッターモートW	外観	1	点検口の状況							
		2	降下位置障害							
		3	操作障害							
		4	警告表示、操作説明ラベル							
		5	カウンター							
	機能	6	開閉機							
		7	ブレーキ装置							
		8	手動装置							
		9	スプロケット・ローラーチェーン							
		10	巻取りシャフト・ブラケット							
		11	スラット・吊元							
		12	座　板							
		13	ケース・まぐさ・押し車							
		14	ガイドレール							
		15	制御盤							
		16	リミットスイッチ							
		17	押しボタンスイッチ							
		18	絶縁抵抗							
	作動	19	降下状況							
		20	降下速度							
		21	巻上状況							
		22	障害物感知装置							
		23	無線装置							
		24	中　柱							

（注）判定欄・・・・・・良＝○　不良＝×　措置済み＝◆

製品本体

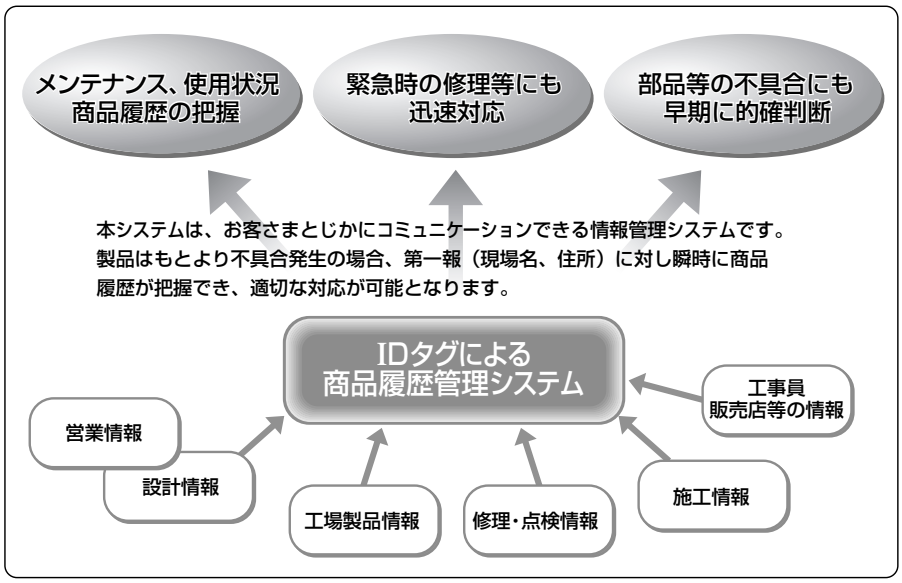
症　状	原　因	対　処
リモコンのスイッチを押してもシャッターが動かない。	シャッターの元電源（一次側電源）が切れていませんか？	シャッターの一次側電源を入れてください。
	シャッターが凍結していませんか？	シャッターの凍結を取り除いてから操作してください。
	「スイッチ2回押し操作」になっていませんか？	スイッチを3秒以内に2回押してください。 「スイッチ1回押し操作」にしたいときは、33ページの手順にしたがって切替操作を行ってください。
リモコンのスイッチを押している間しかシャッターが動かない。	防火設備仕様の場合、座板感知式障害物感知装置の電池が消耗していませんか？ 電池が消耗すると送信時に作動ランプが2秒間点滅し、制御盤内部のブザーが18秒間断続的に鳴り続けます。	電池交換を行ってください。→27ページ
座板感知式障害物感知装置に障害物があたってもシャッターが停止しない。	座板スイッチにドロや小石などがつまっていませんか？	座板スイッチやその周辺を清掃してください。
	座板スイッチ本体が変形または破損していませんか？	ただちに44ページ記載の文化シヤッターサービス株式会社にご連絡ください。 ※ 修理が済むまでは障害物感知装置が働かないため、シャッターを閉めるときは注意してください。
	送信機の送信レンズ面にほこりなどが積もっていませんか？	送信機の送信レンズ面を乾いた布で清掃してください。
	送信機と受光部の間に信号をさえぎる物がありませんか？	さえぎっている物を取り除いてください。
	受光部に直接太陽の光が差し込んでいませんか？	太陽の光が直接差し込まないように日陰を作るなどしてください。
	防火設備仕様の場合、座板感知式障害物感知装置の電池が消耗していませんか？ 電池が消耗すると送信時に作動ランプが2秒間点滅し、制御盤内部のブザーが18秒間断続的に鳴り続けます。	電池交換を行ってください。 →27ページ
リモコンのスイッチの「閉」ボタンを押してもシャッターが動かない。または、閉動作中にシャッターが停止してしまう。	障害物がはさまったままになっていませんか？	障害物を取り除いてください。
	標準仕様の場合、レール内に設置されている障害物感知装置の光電管センサが汚れていたり、異物が付着したりしていませんか？	センサ表面の汚れを、ハケのようなもので清掃してください。 →35ページ その後、押しボタンスイッチまたはリモコンで一度シャッターを開けて、再びリモコンスイッチの「閉」ボタンを押してください。
	上記対処にて正常に戻らない場合は、ただちに44ページ記載の文化シヤッターサービス株式会社にご連絡ください。	

症　　状	原　　因	対　　処
シャッターがスムーズに動作しない。	ただちに使用を止め、44 ページ記載の文化シヤッターサービス株式会社に修理をご依頼ください（有償）。	
開閉時に異常音がする。		
カーテン部に損傷がある。		

- 対処しても動かない場合または上記にあてはまらない場合には、44ページ記載の文化シヤッターサービス株式会社に修理をご依頼ください（有償）。
- 修理のご連絡の際は、座板もしくは制御盤に貼り付けてある「ID タグ」に記載されている管理ナンバー（11 桁の数字）をお知らせください。
- 本製品修理については、部品修理または部品交換で対応いたします。なお、本製品の販売廃止後で修理不可能なものについては、新規交換が必要な場合もあります。

8.　商品履歴管理システムについて

「商品管理システム」とは、お届けした製品一台に一つずつ割り当てた管理ナンバーにより、点検結果や修理結果などを一元的に管理するシステムです。
管理ナンバーは <ID タグ > というラベルの表面に印字されていますので、定期点検や修理をご依頼の際はこの番号をお知らせください。
<ID タグ > の貼付位置は、2 ページの「1. ご使用上の注意」をご覧ください。



修理のご用命は文化シヤッターサービス株式会社へ――

突然のシャッターや窓シャッターの故障。そんな時は、文化シヤッターサービス（株）のATSS＝アットタイムサービスシステムをご利用ください。フリーダイヤルひとつで 365 日素早く対応いたします。

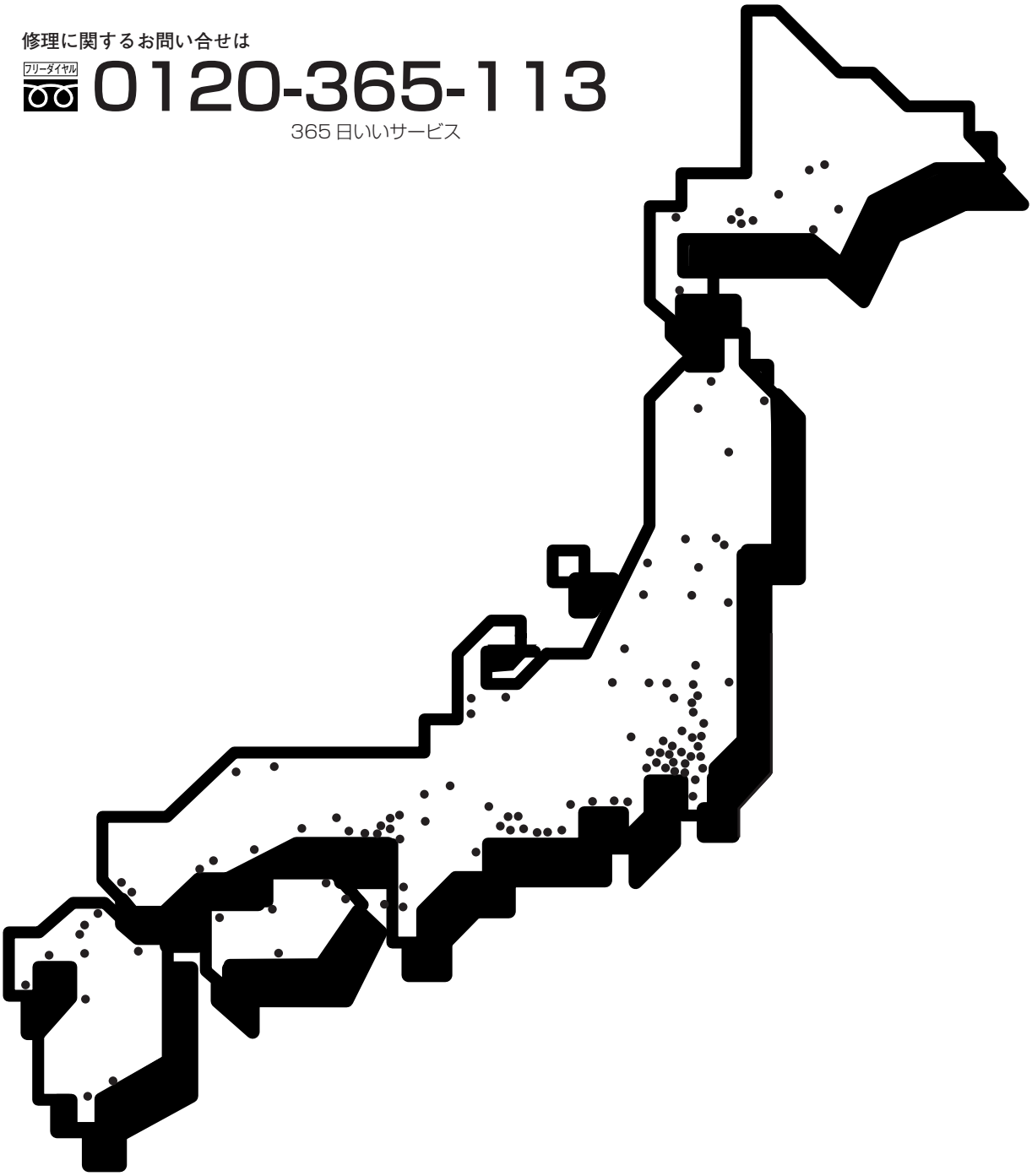
アットタイムサービスシステム

ATSS

修理に関するお問い合せは

フリーダイヤル 0120-365-113

365 日いいサービス



10. 製品保証

保証期間

施工業者よりの引渡し日（注1、注2）から2年間とします。ただし、カウンタ付き製品(注3)については、その期間内でも開閉回数1400回までとします。
（注1）改修工事の場合は、改修部分の工事完了の日とします。
（注2）分譲住宅（建売住宅）・分譲マンションの場合は、建築主様への引渡し日とします。
（注3）電動ワイドシャッター、一般重量シャッター、管理併用防火防煙シャッター、オーバースライディングドア電動式、パネルシャッター

保証内容

取扱説明書、ラベルその他の注意書きに基づく適正なご使用状態で、保証期間内に不具合が発生した場合には、下記に例示する免責事項に該当する場合を除き、無料修理いたします。ただし、遠隔地や離島への出張修理の場合は、交通に要する実費をいただく場合もあります。
なお、強風時に雨水が浸入することがありますが、この製品上の特性であり不具合ではありません。

免責事項

保証期間内でも、次のような場合には有償修理となります。

1 天災その他の不可抗力（例えば、暴風、豪雨、高潮、津波、地震、噴火、落雷、洪水、地盤沈下、火災など）による不具合、又はこれらによって商品の性能を超える事態が発生した場合の不具合
2 製品又は部品の経年変化（使用に伴う消耗、磨耗。木製品のそり、干割れ等）や経年劣化（樹脂部分の変質、変色など）又はこれらに伴うさび、かび又はその他の不具合
3 製品周辺の自然環境、住環境などに起因する結露、腐食又はその他の不具合（例えば、塩害による腐食。大気中の砂塵、煤煙、各種金属粉、亜硫酸ガス、アンモニア、車の排気ガスなどが付着して起きる腐食。異常な高温・低温・多湿による不具合など）
4 自然現象や使用環境に起因する不具合（例えば、結露・凍結、風による振動・共鳴音など）
5 表示された商品の性能を超えた性能を必要とする場所に取り付けられた場合の不具合（例えば、カタログなどに記載された耐風圧以上の風圧に起因するものなど）
6 建築躯体の変形など、商品以外に起因する商品の不具合
7 本来の使用目的以外の用途に使用された場合の不具合、又は使用目的と異なる使用方法による場合の不具合
8 当社の手配によらない加工、組立、施工（基礎工事、取付け工事、シーリング工事など）、管理、メンテナンスなどに起因する不具合（例えば、海砂や急結材を使用したモルタルによる腐食、中性洗剤以外のクリーニング剤を使用したことによる変色や腐食、工事中の養生不良による変色、腐食など）
9 お客様自身の組立て、取付け、修理、改造（必要部分の取外しを含む）に起因する不具合
10 引き渡し後の操作誤り、整備不良又は適切な維持管理を行わなかったことによる不具合
11 使用に伴う接触部分の磨耗・傷・塗装のはがれや時間経過による塗装の退色、樹脂部品の変質・変色、めっきの劣化又はこれらに伴うさびなどの不具合
12 施工当時実用化されていた科学や技術、知識では予測することが不可能な現象、又はこれが原因で生じた不具合
13 犬、猫、鳥、ネズミ、昆虫、ゴキブリ、クモなどの小動物又はつるや根などの植物に起因する不具合
14 機能上支障のない音、振動など感覚的現象
15 犯罪などの不法な行為に起因する破損や不具合

※ 保証期間経過後の修理、交換などは有料とします。
※ 本書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理、その他についてご不明な場合は、最寄りの当社支店・営業所にお問い合わせください。

（尚、専門技術者が定期的なメンテナンスを行うことにより、機能・性能や安全性を継続的に維持することが出来ます。
長くご使用頂くためにも、ぜひ定期点検契約をお申し付け下さい。）

● お問い合わせは最寄りの文化シヤッター（株）支店、営業所もしくは取扱店にご相談ください。

● お問合せは

文化シヤッター株式会社
本社／〒113-8535 東京都文京区西片1丁目17-3
お客様相談室 03 (5844) 7111

S052
2013.08-02-J